

令和 6 年度（2024 年度）第 1 回
宝塚市上下水道事業審議会議事概要

宝塚市上下水道局

令和 6 年度(2024 年度)第 1 回宝塚市上下水道事業審議会議事概要

[日 時] 令和 6 年 10 月 28 日 (月) 午前 9 時 30 分～午前 11 時 20 分

[場 所] 宝塚市役所第二庁舎 第 1 会議室

[出席委員] 鍋田 泰子 尾崎 平
足立 泰美 山本 敏晴
池上 陽子 奥野 敦士
関 義友 (途中参加)

(敬称略・順不同)

[事務局] 福永 管理者
下野 局長 中村 経営管理部長
中条 施設部長 廣瀬 総務課長
原 経営企画課長 和泉 净水課長
宇野 水質検査担当課長 寺脇 給排水設備課長
窪田 下水道課長

- 1 管理者挨拶
- 2 委員交代の報告(赤川委員→池上委員へ)
- 3 委員紹介(池上委員)
- 4 資料の確認

会議次第

資料 1 : 令和 5 年度宝塚市水道事業会計決算

資料 2 : 令和 5 年度宝塚市下水道事業会計決算

宝塚市上下水道事業審議会資料(横長版)

水道と下水道の令和 5 年度決算書(製本版)

座席表

- 5 審議会の成立、傍聴者の確認

事務局：委員総数 10 名中出席委員 6 名(※途中より 1 名参加され、最終的に 7 名)のため
宝塚市上下水道事業審議会規則第 6 条第 2 項により、本日の審議会は成立いたしました。
審議会開会前の傍聴者の入室に際しましては、本日は傍聴される方はおられませんので、報告いたします。

6 議題

会長：それでは、議題Ⅰの「令和5年度水道事業会計決算」について、事務局説明をお願いします。

事務局：令和5年度は、令和元年度から5年連続の赤字となりましたが、令和4年度と比較すると、純損失額は293,331千円減少しました。純損失額減少の主な原因是、令和4年度に行った水道基本料金減免の影響を除くと、収益としては分担金の会計処理方法を変更したことによる一時的な特別利益の増加、費用としては、庁舎移転完了に伴う仮設庁舎賃借料や備消耗品費の減少、受水費や動力費の減少です。

（以下説明省略：審議会資料、資料Ⅰ令和5年度宝塚市水道事業会計決算及び令和5年度水道事業会計決算書参照）

会長：何かご意見はありませんか。

委員：令和5年度に1億円のUR債に投資しているが、経営状況が苦しい中、料金改定を行ったと認識している。投資に回す資金の余裕はあるのか。

事務局：資金繰り状況を見ながら、運用可能な範囲内で運用する方針としております。

委員：UR債の償還期限や利率はどうか。また同様の投資は過去も同様の取り組みをされているか。

事務局：UR債の償還期限は令和10年12月20日（5年債）です。利率は0.507%です。また資金繰りにおいて運用できる資金がある場合、過去においても短期の定期預金などで運用しています。

委員：料金改定をしながら投資を行うことについては、疑念を抱くことにもなるので、関係性を含めてしっかりと説明してほしい。

委員：受水費が10年前に比べて倍増している。収益を圧迫している大きな要因だと考えている。また、長期貸付金についての内容を教えて欲しい。かつ貸付金を出す余裕は水道事業にはないと思われる。

事務局：阪神水道企業団からの受水を決めた際には、小林亀井浄水場を更新した場合の費用と比較したうえで決定しております。また今後阪神水道企業団の受水エリアを広げる計画になっており、これに伴って受水量も増える予定です。

長期貸付金については、全て下水道事業への貸し付けになります。下水道事業の多額の企業債返済などの資金確保のために貸し付けを行っておりますが、企業債償還額の減少に伴い、今後は段階的に水道事業へ返済される予定になっております。

委員：小林亀井浄水場の減損も必要になってくるのではないか。また、阪神水道企業団からの受水を決めた際、小林亀井浄水場の売却も見込んでいたと思われるが、現状として売却が厳しいということは、目論見が大きく外れているということではないか。そのことが料金改定を行わなければならなくなつた原因ではないか。

事務局：小林亀井浄水場の廃止と阪神水道企業団からの受水を決めた当時を想像して頂きたいのですが、当時小林亀井浄水場の更新費用試算は200億円以上であり、また新

たな土地の選定確保、跡地活用などを検討した結果、当時の経営状況も含めて阪神水道企業団から受水することを決めました。また、水源の視点から見ると、当時川下川ダムは渇水のリスクにさらされており、安定した水供給の観点からも阪神水道企業団（淀川水源）から受水することを決めた次第です。

委員：平成28年当時の受水費の見込みと現状実績との乖離はどうか。また、小林亀井浄水場を更新した場合のコストと、阪神水道企業団から受水した場合のコストについて、当時の試算と現状実績との比較はどうか（水供給の安定の観点も含めて）。数値化して検証して頂けるといいのかなと思う。

事務局：ご指摘の通り、今後料金改定の必要が出てきた場合にも、阪神水道企業団を受水したことについての検証、説明が必要になると考えます。

会長：受水費については、単価が上がっているのか、受水量が増えているのかどちらか。

事務局：受水費については、県も阪神水道企業団も4年ごとに見直しが行われており、物価や他市町の状況に応じて単価は変動しています。

委員：小林亀井浄水場跡地については、今後どのようにする方針か。

また、資本的収支については、よりシビアな状況になり内部留保資金も減少していくと思われるが方針はどうか。

事務局：小林亀井浄水場を売却額試算は約19億円、売却するために更地にする費用は約倍額（38億円）が必要になります。また、民間事業者の購入検討についても積極的な話はなく、売却が困難な状況が続いています。については、まだ検討段階ですが、敷地の一部を駐車場にして貸し出すなどで資産の活用を検討しているところです。

委員：小林亀井浄水場跡地については、維持費はどのくらい発生しているか。

事務局：小林亀井浄水場の維持管理費については、年間約500万円となっています。

委員：小林亀井浄水場跡地については、維持費が500万円とのことですので、経営への影響はそこまで大きくないと感じます。売却も現状では非常に困難とのことですので、この件の議論は一旦凍結されてもいいのかなと思います。

会長：小林亀井浄水場については、同様の質問が頻発しているため、経緯や現状をまとめておいて頂けると良いかと思う。

事務局：内部留保資金については、ご指摘の通り、今後減少していくことが想定され、資本的支出も抑制していかなければいけない経営状況です。しかしながら老朽化や耐震化を進めていかなければならない状況もあるため、バランスを取りながら経営をおこなっていく必要があると考えます。

委員：水道事業は水道料金だけの収入で経営していかないといけない法令はあるのか。民間企業であれば、赤字の事業や黒字の事業など多角的な経営を行っている。

水道事業についても、広い視野で経営していくべきではないか。

事務局：水道事業は独立採算性であり、基本的には水道料金収入にて経営を行うこととされています。一部水道料金で賄うべきではないものについては、一般会計からの繰

出などを受けています。しかしながら、他市町も同様に、水道事業単独での経営は困難な状況になっており、広域連携などを強化して対応していくかないと伺っています。

委員：空いてる建物施設を活用するなどで、稼ぐ方策をもう少し考える必要があるのではないか。

事務局：土地の利活用については、民間企業へのサウンディング調査などを行って活用方法を検討しています。また市とも連携しながら活用方法を検討しています。

会長：続きまして、議題2の「令和5年度下水道事業会計決算」について事務局説明をお願いします。

委員：令和5年度は、令和4年度と比較すると、純利益額が80,597千円減少しました。純利益額減少の主な原因是、令和4年度に行った下水道使用料の基本使用料減免の影響を除くと、有収水量の減少による下水道使用料の減少や退職給付引当金戻入益の減少です。（以下説明省略：審議会資料、資料2令和5年度宝塚市下水道事業会計決算及び令和5年度下水道事業会計決算書参照）

委員：合併処理浄化槽で処理している地域は何%くらいでしょうか。

事務局：宝塚市の北部地域（西谷）では公共下水道がないため全てが合併処理浄化槽（汲み取り式含む）となっており、南部地域では約99.6%が公共下水道を使用しています。約500世帯ほどが公共下水道未接続世帯となります。

委員：下水道事業については、経営状況がよくなっているように思われる。企業債も減っている。流域下水道維持管理費については、武庫川流域の費用で約9億となっているのか。また企業債借入の中に、市中銀行からの借入金が多くあるが、なぜか。また今後の予定はどうか。

事務局：流域下水道維持管理費については、武庫川流域と猪名川流域の2箇所での処理費用となっています。

事務局：市中銀行からの借り入れについてですが、まず下水道事業会計において、資本費平準化債という種類の借入金を借りています。これは、企業債の償還期間より、投資資産（管路や設備など）の減価償却期間が長い場合、償却期間に比べて早いペースで企業債を返還していかざるを得ず、資金繰りを圧迫することから、償還期間と減価償却期間の差の範囲において、借り入れできるものです。また、資本費平準化債は借入期間が短い（20年以内）ため、公的資金での借入希望をしても貸出枠がなく、市中銀行からの借り入れに回る形になっています。

今後については、企業債の返済が進んでいることから、新たな資本費平準化債による借り入れは減少していく予定です。

委員：資本費平準化債の元金償還について、国などの補助はないのでしょうか。

事務局：資本費平準化債の元金償還について、国などの補助はありません。

委 員：資本費平準化債を借りるのであれば、水道事業からの借り入れの方が利息面からすると有利ではないか。UR債よりも有利ではないか。

事務局：現状として下水道事業への貸付利率は0.1%としており、UR債の方が利率は高い状況です。

委 員：汚水、雨水の処理方法は合流式でしょうか、分流式でしょうか。

事務局：全て分流式です。

委 員：雨水事業においては、治水が目的であると考えるが、河川管理とのすみ分けはどうか。また、河川ではいかに早く流すかを考えているがどうか。治水においては、河川管理者と連携して行っていく必要があると考える。

事務局：下水道事業は内水処理だと考え、目標雨量を定めて事業を行っています。しかしながら、浸水被害などが起こった場合は、河川管理者とも連携して対応しないといけない事象もあります。河川に一気に水が流れ込まないよう、内水においてはゆっくりと流すことも考え方としてはあると考えています。

会 長：続きまして、議題3の「上下水道ビジョンの改定に向けて」について事務局説明をお願いします。

事務局：事務局より上下水道ビジョンの策定スケジュール及び課題と方向性について説明。

（以下説明省略：審議会資料参照）

委 員：昨今、豪雨災害の増加や管路漏水に起因する道路の陥没などの事案が発生している。管路の老朽化は全国的に進行しており、宝塚市も同様であると思われる。今後同様の事案発生も考えられる中、老朽化対策を今以上に進めていく場合、さらなる料金改定での収入増なども必要になるかと思うが、次期ビジョンへの織り込みについてはどう考えているか。

事務局：老朽化対策については、今後、特に下水道では老朽化が進み、更新需要が高くなります。次期ビジョンでは、財政収支とのバランスを取りながら投資計画を策定していく予定ですが、必要な投資について財源が不足する場合は、料金改定についても検討し織り込む必要があると考えています。

委 員：表現の方法として、各項目についてパターン化し、プランを複数記載した形式での策定をお願いしたい。例えば料金改定であれば、料金改定した場合、しなかった場合、老朽化対策であれば、A%を目標とした場合、B%を目標とした場合など。

「老朽化対策を優先した場合、料金改定が必要になる」、「料金改定を抑制した場合、老朽化目標値は下がる」など検討状況を可視化することで、市民理解も得やすくなると思う。

委 員：人口減少は明確で収入は減っていく中で、費用抑制をしていく必要がある。例えば、AI化・ICT化のモデル事業は進んでいるので、宝塚市も取り入れができるものががあれば、積極的に織り込んでいただきたい。また、今年度から水道事業の管轄

が国土交通省へ移管され、上下一体となっての取り組みの推進が望まれている。また、道路管理者との連携などについても次期ビジョンに織り込まれてはどうか。工事、委託の連携発注などでコストを抑えることができるのではないか。

事務局：今後10年においてウォーターPPPに取り組んでいく予定で、令和9年度には今の委託の仕方を大きく見直していくことを考えています。職員が減っていく状況では官民連携は避けられないと考えています。またAI、ICTの活用についても次期ビジョンへ出来る限り織り込みたいと思います。

委員：現在、上下水道事業ともに債務超過ではない状況なので、コンセッション方式など、思い切った官民連携を進めていってはどうかと思う。

委員：管路の更新率や耐震化率は収益に大きく関わってくると考えている。宝塚市は更新率が十分ではなく、今後有収水量が減っていくと考えられる。また下水道においても分流式であれば不明水の増加により収益が減少する懸念がある。施設の健全性は収益の面からも重要であり、全国平均とも比較しながら、宝塚市としての目標を設定し、その目標を維持することを基準として各指標や収益計画を策定すると根拠を示しやすいのかなと思う。

委員：昨今の豪雨で避難経路などが浸水していることがあるので、雨水対策についても、豪雨時の降雨量などを加味して次期ビジョンへ織り込んでいただきたい。

会長：令和6年度に料金改定を行っているが、料金改定をすると水の使用を控える動きもあると思われるので、ビジョンを策定するうえで、今回の料金改定の使用量への影響をとりまとめていただきたい。宝塚市は料金改定の際、控えめの改定率にされる傾向があるのかなと思われる。健全な経営をするためにも、ビジョンや経営戦略に沿って料金改定を考えられるべきかと思う。

会長：それでは、議題4の「その他」について事務局説明をお願いします。

事務局：その他については特にございませんので、本日の議題は以上となります。

7 閉会

事務局：本日の審議会はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

令和5年度（2023年度）

宝塚市水道事業会計決算

宝塚市上下水道局



川下川貯水池（宝塚市玉瀬字イズリハ）

目 次

1. 決算の概要	· · · ·	1
2. 人口及び戸数	· · · ·	1
3. 水量	· · · ·	1
4. 企業債	· · · ·	1
5. 決算の詳細	· · · ·	2
6. 主要施策	· · · ·	4
7. 管路等の耐震化の状況	· · · ·	6
8. 主な経営数値	· · · ·	7
9. 主な水道施設の一覧と職員の配置状況	· · · ·	8

I. 決算の概要

令和5年度は収益合計4,533,708千円に対し、費用合計4,707,238千円となり、173,530千円の純損失が生じました。令和元年度から5年連続の赤字となり、令和5年度末の未処分利益剰余金は197,255千円まで減少しています。令和4年度と比較すると、純損失額は293,331千円減少しました。純損失額減少の主な原因是、令和4年度に行った水道基本料金減免の影響を除くと、収益としては分担金の会計処理方法を変更したことによる一時的な特別利益の増加、費用としては庁舎移転完了に伴う仮設庁舎賃借料や備消耗品費の減少、受水費や動力費の減少です。

資本的収入及び支出としては、建設改良費1,435,253千円に対して、1,033,000千円の企業債借入を行いました。

2. 人口及び戸数

令和5年度末の給水人口は228,635人で前年度比1,802人の減少となっているのに対し、給水戸数は107,199戸で前年度比317戸の増加となっています。人口が減少する一方、世帯数は増加傾向が続いています。

	給水人口（人）	前年度比（人）	給水戸数（戸）	前年度比（戸）
令和元年度	233,933	△339	105,377	812
令和2年度	233,194	△739	106,115	738
令和3年度	231,929	△1,265	106,397	282
令和4年度	230,437	△1,492	106,882	485
令和5年度	228,635	△1,802	107,199	317

3. 水量

令和5年度末の有収水量は22,652,213m³で前年度比289,328m³の減少となっています。令和2年度に新型コロナウイルス感染症の流行による手洗いの増加等により有収水量は増加しましたが、令和3年度から3年連続で減少しています。

	総配水量（m ³ ）	前年度比（m ³ ）	有収水量（m ³ ）	前年度比（m ³ ）	有収率
令和元年度	24,900,171	135,391	23,158,533	△52,869	93.0%
令和2年度	25,475,776	575,605	23,672,643	514,110	92.9%
令和3年度	25,085,008	△390,768	23,342,565	△330,078	93.1%
令和4年度	24,892,695	△192,313	22,941,541	△401,024	92.2%
令和5年度	24,430,981	△461,714	22,652,213	△289,328	92.7%

4. 企業債

老朽化した管路等の更新や耐震化工事を継続して実施していることから、企業債残高は増加傾向にあります。

(千円)

	年度当初未償還額	発行額	償還額	年度末未償還額
令和元年度	12,832,197	1,751,000	517,987	14,065,210
令和2年度	14,065,210	1,398,300	548,812	14,914,698
令和3年度	14,914,698	649,500	584,560	14,979,638
令和4年度	14,979,638	1,181,100	755,945	15,404,793
令和5年度	15,404,793	1,033,000	691,767	15,746,026

5. 決算の詳細

(Ⅰ) 収益的収入及び支出（損益計算書/税抜） (千円)

区分		令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)	備考
収入	1 営業収益 (給水収益) (受託工事収益) (その他営業収益)	3,631,547 (3,443,567) (22,018) (165,962)	3,448,348 (3,245,943) (17,981) (184,424)	183,199) (197,624) (4,037) (△18,462)	105.3 (106.1) (122.5) (90.0)	※1
	2 営業外収益 (分担金) (受取利息) (他会計補助金) (長期前受金戻入) (国庫補助金) (雑収益)	717,951 (172,180) (769) (60,078) (456,300) (0) (28,624)	819,700 (90,485) (417) (253,465) (460,705) (3,575) (11,053)	△101,749) (81,695) (352) (△193,387) (△4,405) (△3,575) (17,571)	87.6 (190.3) (184.4) (23.7) (99.0) (皆減) (259.0)	※2
	3 特別利益 (退職給付引当金戻入益) (過年度損益修正益) (その他特別利益)	184,210 (15,135) (2,905) (166,170)	106,191 (105,148) (1,043) (0)	78,019 (△90,013) (1,862) (166,170)	173.5 (14.4) (278.5) (皆増)	※3
	計	4,533,708	4,374,239	159,469	103.6	
支出	1 営業費用 (人件費) (受水費) (動力費) (薬品費) (修繕費) (路面復旧費) (委託料) (減価償却費) (その他営業費用)	4,524,704 (757,807) (1,252,940) (238,399) (95,346) (225,571) (3,651) (527,849) (1,257,583) (165,558)	4,630,002 (741,354) (1,316,789) (301,659) (63,395) (227,515) (3,326) (491,178) (1,235,742) (249,044)	△105,298 (16,453) (△63,849) (△63,260) (31,951) (△1,944) (325) (36,671) (21,841) (△83,486)	97.7 (102.2) (95.2) (79.0) (150.4) (99.1) (109.8) (107.5) (101.8) (66.5)	※4 ※5 ※6
	2 営業外費用 (支払利息) (その他営業外費用)	179,878 (179,316) (562)	207,900 (174,252) (33,648)	△28,022) (5,064) (△33,086)	86.5 (102.9) (1.7)	※7
	3 特別損失 (過年度損益修正損)	2,656 (2,656)	3,198 (3,198)	△542) (△542)	83.1 (83.1)	
	計	4,707,238	4,841,100	△133,862	97.2	
	当年度純利益	△ 173,530	△ 466,861	293,331	-	
	繰越未処分利益剰余金	370,785	837,646			
	未処分利益剰余金	197,255	370,785			
	利益処分額(案)	0	0			

※1 (増額の理由) 令和4年度の基本料金減免224,184千円、水量減等△26,560千円。

※2 (減額の理由) 基本料金減免に対する一般会計繰入金248,357千円。

※3 (増額の理由) 分担金の会計処理方法変更に伴う前受金残高の収益化

※4 (減額の理由) 渴水対応に係る阪神水道企業団からの受水量が減少したため。

※5 (減額の理由) 電力料金への国の支援があったため。

※6 (減額の理由) 庁舎移転完了により仮設庁舎賃借料等が減少したため。

※7 (減額の理由) 特定収入に係る控除できない消費税が減少したため。

(2) 資本的収入及び支出（税込）

(千円)

区分		令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)	備考
収	1 企業債 (配水管整備事業)	1,033,000 (665,800)	1,181,100 (602,800)	△148,100 (63,000)	87.5 (110.5)	
	(新庁舎建設事業)	(0)	(568,100)	(△568,100)	(皆減)	
	(水質試験所整備事業)	(0)	(10,200)	(△ 10,200)	(皆減)	
	(配水池用地買収事業)	(152,800)	(0)	(152,800)	(皆増)	
	(送・配水施設整備事業)	(13,000)	(0)	(13,000)	(皆増)	
	(送水施設整備事業)	(121,700)	(0)	(121,700)	(皆増)	
	(浄水施設整備事業)	(79,700)	(0)	(79,700)	(皆増)	
入	2 国庫補助金	0	18,692	△18,692	皆減	
	3 他会計負担金	22,206	9,532	12,674	233.0	
	4 工事負担金	0	28,658	△28,658	皆減	
	5 貸付金返還金	0	250,000	△250,000	皆減	※8
	6 固定資産売却代金	0	717	△ 717	皆減	
	計	1,055,206	1,488,699	△433,493	70.9	
支	1 建設改良費 (事務費)	1,435,253 (86,252)	1,950,613 (103,425)	△515,360 (△17,173)	73.6 (83.4)	
	(原水及び浄水施設費)	(131,751)	(39,045)	(92,706)	(337.4)	※9
	(送水及び配水施設費)	(1,184,055)	(1,079,076)	(104,979)	(109.7)	※10
	(営業設備費)	(33,195)	(729,067)	(△695,872)	(4.6)	※11
	2 企業債償還金	691,767	755,945	△64,178	91.5	
	3 投資	400,000	300,000	100,000	133.3	※12
	計	2,527,020	3,006,558	△479,538	84.1	
前年度同意債で今年度収入分		274,500	16,000	258,500	1715.6	
資本的収支不足額		1,746,314	1,533,859	212,455	113.9	

補 填 財 源	損益勘定留保資金 消費税資本的収支調整額 当年度同意債の未借入分	1,413,602 119,912 212,800	1,107,207 152,152 274,500
------------------	--	---------------------------------	---------------------------------

※8 (令和4年度の内容) 病院事業会計からの貸付金返還額。

※9 (令和5年度の内容) 川面浄水場受変電設備改良工事 79,750千円
小浜浄水場浸水対策 16,545千円 など※10 (令和5年度の内容) 管路耐震化(更新)事業 1,057,345千円
配水池加圧所耐震化(更新)事業 21,569千円
配水池統廃合事業 51,273千円
配水池加圧所機械設備等更新事業 13,264千円 など

※11 (令和4年度の内容) 新庁舎整備事業 661,582千円 など

※12 (内容) 令和4年度、令和5年度とも下水道事業会計への貸付金300,000千円。
令和5年度 UR都市再生債 100,000千円 (5年債)

6. 主要施策

(1) 施設改良・更新に関する取組

① 管路耐震化（更新）事業 1,057,345千円(税込)

管路更新・耐震化計画に基づいて、老朽化した管路の更新・耐震化を実施しました。

※令和6年度借入を含む

財源（千円）	
企業債※	878,600
国庫補助金	0
他会計負担金	22,206
工事負担金	0
自己財源	156,539



場所	内容
中山桜台4丁目外	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=1,719m
高司1丁目外	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=812m SUS鋼管、施工延長 L=17m
山本丸橋1丁目外	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=1,088m
安倉中4丁目外	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=1,048m
末広町外	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=803m
長谷字髭才外	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=670m SUS鋼管、施工延長 L=17m
仁川宮西町	ダクタイル鑄鉄管、施工延長 L=142m

予算：資本的支出>建設改良費>送水及び配水施設費

② 配水池加圧所耐震化（更新）事業 21,569千円(税込)

配水池・加圧所の耐震化（更新）に向けた業務委託を実施しました。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	21,569



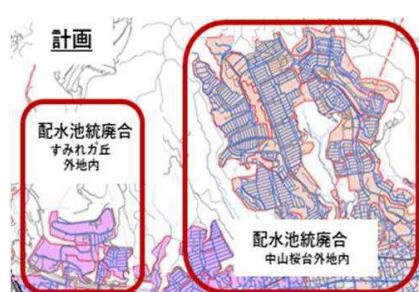
場所	内容
すみれが丘加圧所 すみれが丘下配水池加圧所	配水池・加圧所耐震（二次）
山手台下配水池加圧所 山手台中配水池加圧所	診断調査業務委託

予算：資本的支出>建設改良費>送水及び配水施設費

③配水池統廃合事業 51,273千円(税込)

武庫川左岸地区の浄水場や送配水施設の再構築を行うため、基本計画業務を委託しました。

財源（千円）	
企業債※	0
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	51,273



場所	内容
すみれが丘4丁目 外	武庫川左岸地区送配水施設基本設計業務委託

予算：資本的支出>建設改良費>送水及び配水施設費

④配水池加圧所機械設備等更新事業 13,264千円(税込)

加圧所に設置されている送水泵の改良工事を実施しました。

財源(千円)	
企業債	13,000
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	264

場所	内容
北畠加圧所	北畠加圧所送水泵改良工事



予算：資本的支出>建設改良費>送水及び配水施設費

⑤川面浄水場受変電設備改良工事 79,750千円(税込)

川面浄水場を2回線受電にすることで停電対策を図るため、既設受電設備の更新及び予備受電設備の追加を実施しました。

財源(千円)	
企業債	79,700
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	50



予算：資本的支出>建設改良費>原水及び浄水施設費

(2) 安心安全に関する取組

①川下川ダム取水導水等関連施設点検業務 16,500千円(税込)

施設の経年劣化を測定するため定期点検を実施しました。

財源(千円)	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	16,500

場所	内容
玉瀬字イズリハ外 地内	川下川ダム堤体、渓流取水口3カ所等 無圧トンネルL=1,870m (H=1.0m、W=1.6m)



予算：収益的支出>営業費用>原水及び浄水費

7. 管路等の耐震化の状況

(1) 基幹管路の耐震化率（口径150mm以上の管路を対象）

導水管、送水管、配水管（口径150mm以上）のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。道路管理者等との調整や現場状況及び事業費の増加等により工事の進捗が遅れていますが、今後は、事業実施体制の強化を図り、管路更新・耐震化計画に基づいて着実に実施します。

（基幹管路延長 L=348,492m）

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
目標値 (%)	20.7	23.6	26.5	29.4	32.3
実績値 (%)	14.4	15.4	16.2	16.9	18.4

(2) 管路耐震化率（全管路対象）

管路のうち、耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。道路管理者等との調整や現場状況及び事業費の増加等により工事の進捗が遅れていますが、今後は、事業実施体制の強化を図り、管路更新・耐震化計画に基づいて着実に実施します。

（全管路延長 L=818,724m）

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
目標値 (%)	11.3	12.6	13.8	15.1	16.3
実績値 (%)	10.4	11.1	12.1	12.7	14.0

(3) 配水池の耐震化率

配水池のうち、耐震化がなされている施設の容量の割合です。容量の小さい配水池や加圧所の工事を実施していたため目標に達していませんが、今後は、容量の大きい配水池の工事を計画しています。

（配水池数 48カ所）

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	
耐震化済箇所数（カ所）	11	12	12	13	14	
耐震化率 (容量比)	目標値 (%)	52.2	52.2	52.2	55.5	59.7
実績値 (%)	45.5	47.0	47.0	49.1	49.2	

(4) 加圧所の耐震化率

加圧所のうち、耐震化がなされている施設能力の割合です。予定していた耐震工事や更新工事を行い、耐震化率は向上しています。今後も引き続き事業を着実に実施します。

（加圧所数 30カ所）

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	
耐震化済箇所数（カ所）	11	12	12	13	15	
耐震化率 (能力比)	目標値 (%)	24.1	25.6	25.6	25.6	26.7
実績値 (%)	19.1	28.9	28.9	32.8	40.1	

※ 目標値は水道事業経営戦略に掲げた数値です。

8. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。どの年度も100%を下回っており、安定した経営の実現のため、令和6年4月から改定率を平均19%（ただし、令和6年4月から令和7年3月までは経過措置期間として改定額を半額）とする料金改定を実施するなど改善への取組みを進めています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
経常収支比率 (%)	95.3	93.4	92.3	88.2	92.5

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

当年度純利益は令和元年度から5年連続でマイナスです。その累積額である未処分利益剰余金は、令和5年度末には197,255千円まで減少しました。令和6年度までこの傾向は継続する見込みですが、その後は徐々に改善する見通しです。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
当年度純利益（千円）	△974,361	△290,930	△333,692	△466,861	△173,530
未処分利益剰余金（千円）	1,462,269	1,171,338	837,646	370,785	197,255

(3) 現金預金残高

現金預金残高に大口定期等と他会計貸付金を加算した合計額は、3,921,725千円（令和5年度末）となり3年連続で減少しています。前年度比では436,072千円の減少となりました。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
現金預金残高（千円）	3,778,605	4,030,269	3,541,313	3,087,797	2,251,725
大口定期等（千円）	800,000	300,000	0	0	100,000
他会計貸付金（千円）	620,000	920,000	1,220,000	1,270,000	1,570,000
合計（千円）	5,198,605	5,250,269	4,761,313	4,357,797	3,921,725

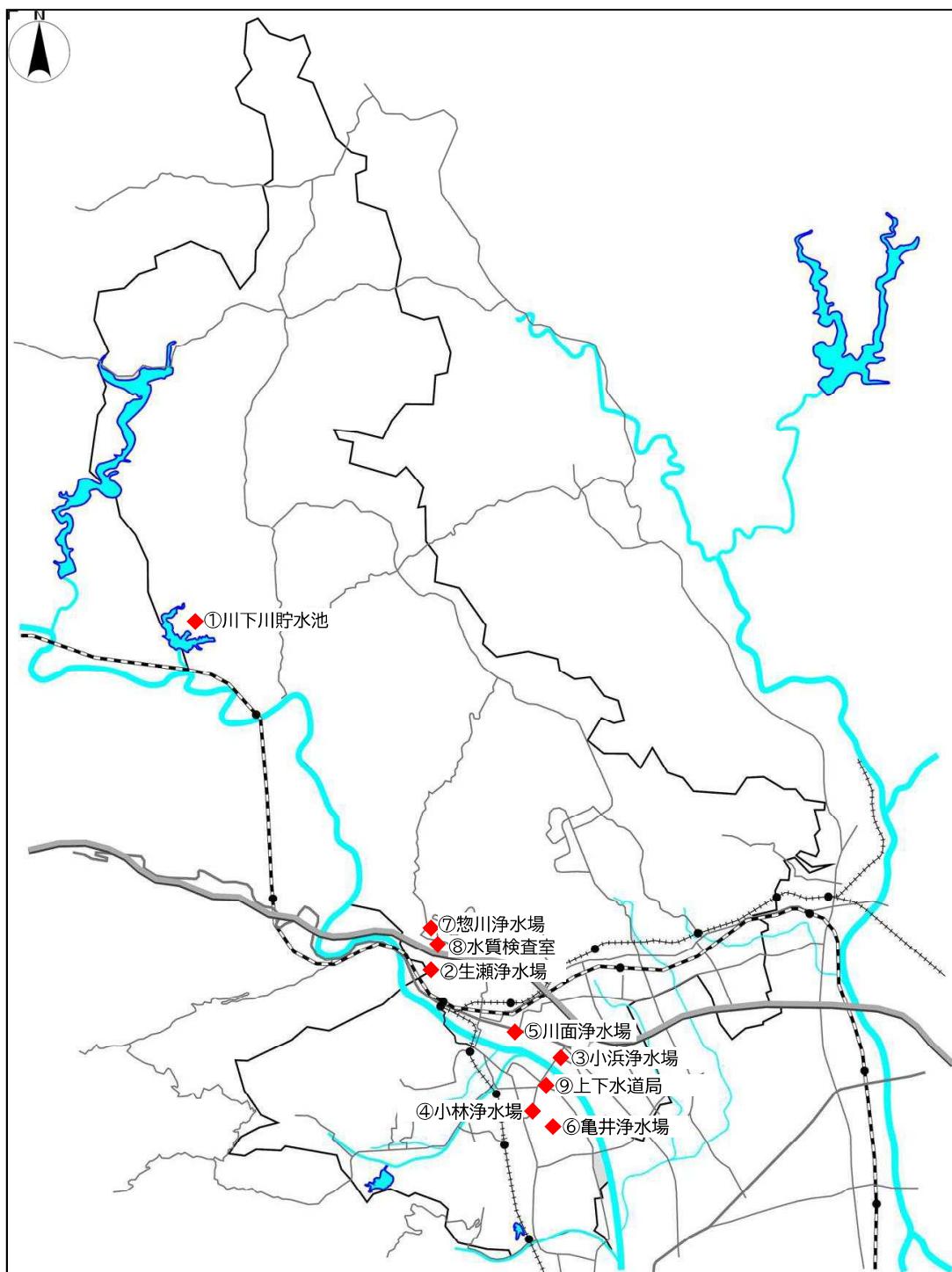
(4) 給水原価及び供給単価

供給単価は1m³あたりの平均収益、給水原価は1m³の水道水を作るのに要する費用で、すべての年度で給水原価が供給単価を上回っています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
供給単価（円）	152.3	131.0	150.5	141.5	152.0
給水原価（円）	175.3	165.2	179.5	190.0	186.6
差引（円）	△23.0	△34.2	△29.0	△48.5	△34.6

9. 主な水道施設の一覧と職員の配置状況

(Ⅰ) 水道施設位置図



(2) 職員の配置状況

令和6年3月31日現在

	施設名	所在地	職員の配置	備考
①	川下川貯水池	玉瀬字イズリハ～ 神戸市北区道場町 生野	0人	
②	生瀬浄水場	西宮市生瀬東町4番 1号	業務委託	浄水池及び送水ポンプのみ稼動。
③	小浜浄水場	小浜3丁目5番20号	浄水課 7人 (7人)	
④	小林浄水場	亀井町1番23号	0人	浄水停止。
⑤	川面浄水場	旭町3丁目92番地	0人	浄水池及び送水ポンプのみ稼動。小浜浄水場職員が管理。
⑥	亀井浄水場	亀井町9番46号	0人	浄水停止。
⑦	惣川浄水場	すみれガ丘4丁目 2番1号	浄水課 13人 (13人)	
⑧	水質検査室	すみれガ丘4丁目 2番3号	水質検査室 5人 (5人)	
⑨	上下水道局	東洋町1番3号	上下水道事業管理者 1人 (1人) 上下水道局長 1人 (1人) 経営管理部長 1人 (1人) 施設部長 1人 (1人) 総務課 11人 (8人) 経営企画課 4人 (3人) 浄水課 7人 (7人) 工務課 27人 (27人) 給排水設備課 15人 (10人) 下水道課 13人 (0人)	

()内は、うち水道事業会計職員 合計84名

令和5年度（2023年度）

宝塚市下水道事業会計決算

宝塚市上下水道局



武庫川下流浄化センター（尼崎市）

目 次

1. 決算の概要	· · · ·	1
2. 人口及び戸数	· · · ·	1
3. 水量	· · · ·	1
4. 企業債	· · · ·	1
5. 決算の詳細	· · · ·	2
6. 主要施策（雨水事業）	· · · ·	4
7. 主要施策（汚水事業）	· · · ·	5
8. 管路の耐震化の状況	· · · ·	6
9. 主な経営数値	· · · ·	7
10. 主な下水道施設の一覧と職員の配置状況	· · · ·	8

I. 決算の概要

令和5年度は収益合計4,018,764千円に対し、費用合計3,979,532千円となり、39,232千円の純利益が生じました。令和5年度末の未処分利益剰余金は2,758,001千円まで増加していますが、令和4年度と比較すると、純利益額は80,597千円減少しています。純利益額減少の主な原因は、令和4年度に行った下水道使用料の基本使用料減免の影響を除くと、有収水量の減少による下水道使用料の減少や退職給付引当金戻入益の減少です。

資本的収入及び支出としては、建設改良費861,221千円に対して、563,800千円の企業債借入を行いました。また、営業運転資金に充てるため、水道事業会計から300,000千円の借入を行いました。

2. 人口及び戸数

令和5年度末の水洗化人口は224,790人で前年度比1,639人の減少となっているのに対し、水洗化世帯数は105,316戸で前年度比358戸の増加となっています。人口が減少する一方、世帯数は増加傾向が続いている。

	水洗化人口（人）	前年度比（人）	水洗化世帯数（戸）	前年度比（戸）
令和元年度	229,350	△288	103,308	849
令和2年度	228,759	△591	104,021	713
令和3年度	227,864	△895	104,468	447
令和4年度	226,429	△1,435	104,958	490
令和5年度	224,790	△1,639	105,316	358

3. 水量

令和5年度末の有収水量は22,675,126m³で前年度比290,771m³の減少となっています。令和2年度に新型コロナウイルス感染症の流行による手洗いの増加等により有収水量は増加しましたが、令和3年度から3年連続で減少しています。

	総処理水量（m ³ ）	前年度比（m ³ ）	有収水量（m ³ ）	前年度比（m ³ ）	有収率
令和元年度	26,720,597	439,902	23,183,140	△52,639	86.8%
令和2年度	29,411,516	2,690,919	23,730,936	547,796	80.7%
令和3年度	30,159,244	747,728	23,444,797	△286,139	77.7%
令和4年度	27,102,261	△3,056,983	22,965,897	△478,900	84.7%
令和5年度	26,634,638	△467,623	22,675,126	△290,771	85.1%

4. 企業債

毎年度、多額の償還を実施していることから、企業債残高は減少傾向にあります。
(千円)

	年度当初未償還額	発行額	償還額	年度末未償還額
令和元年度	21,977,122	814,800	2,468,275	20,323,647
令和2年度	20,323,647	845,800	2,520,006	18,649,441
令和3年度	18,649,441	1,138,550	2,403,462	17,384,529
令和4年度	17,384,529	1,088,750	2,305,400	16,167,879
令和5年度	16,167,879	563,800	1,783,073	14,948,606

5. 決算の詳細

(Ⅰ) 収益的収入及び支出（損益計算書/税抜） (千円)

区分	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)	備考	
収入	1 営業収益 (下水道使用料) (雨水処理負担金) (他会計負担金) (その他営業収益)	2,839,988 (2,195,892) (636,478) (7,112) (506)	2,802,374 (2,107,207) (687,737) (6,869) (561)	37,614 (88,685) (△51,259) (243) (△55)	101.3 (104.2) (92.5) (103.5) (90.1)	※1
	2 営業外収益 (受取利息) (国庫補助金) (他会計負担金) (他会計補助金) (長期前受金戻入) (その他営業外収益)	1,169,828 (3) (224) (54,622) (399,593) (705,336) (10,050)	1,286,681 (5) (298) (50,760) (527,967) (702,315) (5,336)	△116,853 (△2) (△74) (3,862) (△128,374) (3,021) (4,714)	90.9 (60.0) (75.2) (107.6) (75.7) (100.4) (188.3)	※2
	3 特別利益 (退職給付引当金戻入益) (過年度損益修正益ほか)	8,948 (3,021) (5,927)	40,156 (31,732) (8,424)	△31,208 (△28,711) (△2,497)	22.3 (9.5) (70.4)	
	計	4,018,764	4,129,211	△110,447	97.3	
支出	1 営業費用 (人件費) (修繕費) (委託料) (負担金) (流域下水道維持管理費) (減価償却費) (その他営業費用)	3,716,232 (139,776) (201,570) (124,764) (155,433) (911,707) (2,139,071) (43,911)	3,698,823 (148,988) (174,835) (147,206) (175,636) (896,036) (2,128,508) (27,614)	17,409 (△9,212) (26,735) (△22,442) (△20,203) (15,671) (10,563) (16,297)	100.5 (93.8) (115.3) (84.8) (88.5) (101.7) (100.5) (159.0)	
	2 営業外費用 (支払利息) (その他営業外費用)	261,083 (212,158) (48,925)	303,549 (250,996) (52,553)	△42,466 (△38,838) (△3,628)	86.0 (84.5) (93.1)	※3
	3 特別損失 (損害賠償金) (過年度損益修正損ほか)	2,217 (0) (2,217)	7,010 (6,168) (842)	△4,793 (△6,168) (1,375)	31.6 (皆減) (263.3)	
	計	3,979,532	4,009,382	△29,850	99.3	
	当年度純利益	39,232	119,829	△80,597	-	
	繰越未処分利益剰余金	2,718,769	2,598,940			
	未処分利益剰余金	2,758,001	2,718,769			
	利益処分額(案)	0	0			

※1 (増額の理由) 令和4年度の基本使用料減免112,044千円、水量減等△23,359千円。

※2 (減額の理由) 令和4年度の基本使用料減免に対する一般会計繰入金123,249千円。

※3 (減額の理由) 企業債残高が減少しているため。

(2) 資本的収入及び支出（税込） (千円)

区分		令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)	備考
収入	1 企業債 (公共下水道企業債) (流域下水道企業債) (資本費平準化債)	563,800 (509,700) (54,100) (0)	1,088,750 (452,300) (70,100) (566,350)	△524,950 (57,400) (△16,000) (△566,350)	51.8 (112.7) (77.2) (皆減)	
	2 国庫補助金	54,669	44,849	9,820	121.9	
	3 他会計負担金	138,048	127,996	10,052	107.9	
	4 工事負担金	3,981	2,469	1,512	161.2	
	5 水洗便所改造資金回収金	120	190	△70	63.2	
	6 固定資産売却代金	20,857	0	20,857	皆増	
	計	781,475	1,264,254	△482,779	61.8	
支出	1 建設改良費 (公共下水道整備費) (流域下水道整備費) (受益者負担金事務経費) (固定資産購入費)	861,221 (705,769) (109,392) (8,616) (37,444)	726,038 (584,378) (107,496) (8,450) (25,714)	135,183 (121,391) (1,896) (166) (11,730)	(118.6) (120.8) (101.8) (102.0) (145.6)	※4
	2 企業債償還金 (公共下水道企業債償還金) (流域下水道企業債償還金) (資本費平準化債償還金)	1,783,073 (1,245,328) (147,531) (390,214)	2,305,400 (1,430,774) (154,816) (719,810)	△522,327 (△185,446) (△7,285) (△329,596)	(77.3) (87.0) (95.3) (54.2)	※5
	計	2,644,294	3,031,438	△387,144	87.2	
	資本的収支不足額	1,862,819	1,767,184	95,635	105.4	
	補填財源	損益勘定留保資金 消費税資本的収支調整額 当年度同意債の未借入分	1,791,522 71,297 0	1,706,353 60,831 0		

※4 (令和5年度の内容) 雨水事業

浸水対策事業	157,067千円
武庫川ポンプ場改築事業	23,443千円 など
汚水事業	
管路等更新事業	133,232千円
重要な汚水幹線の更新事業	279,351千円
未水洗化区域施設整備事業	17,142千円 など

※5 (減額の内容) 企業債残高減少による前年度比の減少。

6. 主要施策（雨水事業）

(1) 浸水に対する取組

① 浸水対策事業 157,067千円(税込)

近年の想定を超えた大雨に対応するため、向月町地区や星の荘地区の浸水対策として雨水排除能力の強化に取り組んでいます。また、下水道事業区域における内水浸水想定区域図の策定を行っています。

財源（千円）	
企業債	122,700
国庫補助金	17,012
他会計負担金	17,355
工事負担金	0
自己財源	0

場所	内容
寿町	既設水路改修工（モルタルライニング） L=260m
小浜5丁目	尼宝雨水幹線呑口部（ドロップシャフト）改良工事
市内一円	内水浸水想定区域図の策定 A = 2,669ha



予算：資本的支出>建設改良費>公共下水道整備費

② 調整池維持管理事業 5,252千円(税込)

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図っており、雲雀丘3丁目調整池について土砂の浚渫を行っています。

財源（千円）	
企業債	0
国庫補助金	0
他会計負担金	5,252
工事負担金	0
自己財源	0

場所	内容
雲雀丘3丁目	土砂浚渫 42.9m³



予算：収益的支出>営業費用>委託料

(2) 老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業 23,443千円(税込)

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、改築を行うため、耐震診断業務及び耐水化詳細設計業務を行いました。

財源（千円）	
企業債	11,700
国庫補助金	11,721
他会計負担金	22
工事負担金	0
自己財源	0

場所	内容
武庫川町	耐震診断業務及び耐水化詳細設計業務



予算：資本的支出>建設改良費>公共下水道整備費

7. 主要施策（汚水事業）

(1) 老朽化に対する取組

① 管路等更新事業 133,232千円（税込）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査を実施し、その結果を踏まえて更新を行います。今年度は、安倉南や福井町などで24kmのカメラ調査を実施しました。また改築工事として野上3丁目など280mを実施しました。

財源（千円）	
企業債	56,700
国庫補助金	25,936
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	50,596

場所	内容
安倉南、福井町外	管渠内清掃 L=24km TVカメラ調査 L=24km
野上3丁目、湯本町外	管更生工事 L=280m 既設コンクリート管



予算：資本的支出>建設改良費>公共下水道整備費

(2) 耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業 279,351千円（税込）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路を更新します。今年度は、山本野里地区にある山本野里1号汚水幹線の耐震化工事を実施しました。

財源（千円）	
企業債	264,200
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	15,151

場所	内容
山本野里1丁目外	管更生工事 L=1,366m 既設コンクリート管
福井町外	改築工事詳細設計 L = 1,500m



予算：資本的支出>建設改良費>公共下水道整備費

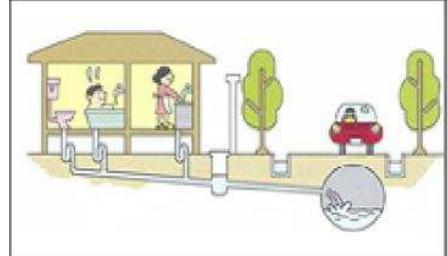
(3) 未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業 17,142千円（税込）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるよう、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組んでいます。今年度は、仁川宮西町や安倉西などに汚水管を新設しました。

財源（千円）	
企業債	16,100
国庫補助金	0
他会計負担金	0
工事負担金	0
自己財源	1,042

場所	内容
仁川宮西町	Φ200汚水管布設 L= 70m
安倉西1丁目	Φ200汚水管布設 L=100m



予算：資本的支出>建設改良費>公共下水道整備費

8. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な汚水管路の耐震化率

下水道管渠が損傷した場合、使用者への影響が大きい管路や社会的影響が大きい緊急輸送路、軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。令和5年度は山里野里Ⅰ号污水幹線（延長L=1,366m）の耐震化に取組み、前年度に比べ6.9ポイント向上したものの目標値を8.0ポイント下回りました。

(管路延長 L=6,900m)

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
目標値 (%)	43.1	47.4	57.9	68.4	79.0
実績値 (%)	33.8	40.7	56.9	64.1	71.0

(2) 汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。令和5年度は宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施しましたが、目標値を0.7ポイント下回りました。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

(全管路延長 L=527,465m)

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
目標値 (%)	19.6	20.5	21.4	22.4	23.3
実績値 (%)	20.3	20.6	21.2	21.4	22.6

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

9. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。令和5年度は100%を超えていますが、徐々に低下しています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
経常収支比率 (%)	110.3	106.1	99.6	102.2	100.8

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和5年度は純利益を達成できました。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和3年度の純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。令和4年度以降、他会計補助金は「汚水に係る資本費の30%」を受け取っています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
当年度純利益（千円）	410,656	239,675	0	119,829	39,232
未処分利益剰余金（千円）	2,359,265	2,598,940	2,598,940	2,718,769	2,758,001

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和6年度までは借入が必要と見込んでいます。しかし、令和7年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しづつ返済できる見込みです。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
借入金残高（千円）	370,000	670,000	970,000	1,270,000	1,570,000

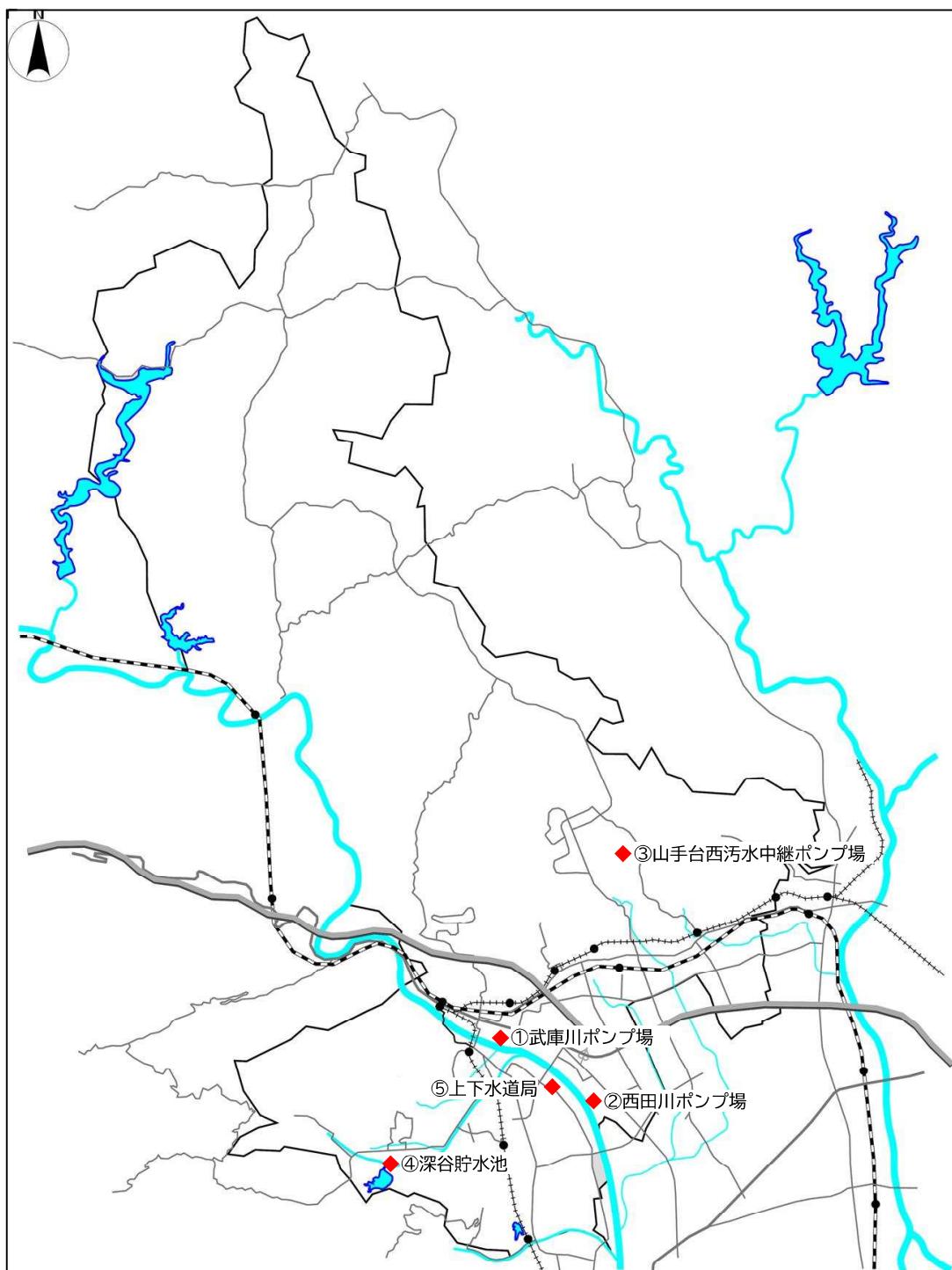
(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1m³あたりの平均収益、汚水処理原価は1m³の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
使用料単価（円）	97.2	87.1	96.6	91.8	96.8
汚水処理原価（円）	112.1	108.4	112.3	114.4	116.1
差引（円）	△14.9	△21.3	△15.7	△22.6	△19.3

10. 主な下水道施設の一覧と職員の配置状況

(Ⅰ) 下水道施設位置図



(2) 職員の配置状況

令和6年3月31日現在

	施設名	所在地	職員の配置	備考
①	武庫川ポンプ場	武庫川町6番1号	0人	雨水ポンプ場
②	西田川ポンプ場	安倉西2丁目3番15号	0人	雨水ポンプ場
③	山手台西汚水中継ポンプ場	山手台西3丁目7番1011	0人	汚水ポンプ場
④	深谷貯水池	藏人字深谷1390番地2	0人	
⑤	上下水道局	東洋町1番3号	上下水道事業管理者 1人 (0人) 上下水道局長 1人 (0人) 経営管理部長 1人 (0人) 施設部長 1人 (0人) 総務課 11人 (3人) 経営企画課 4人 (1人) 净水課 7人 (0人) 工務課 27人 (0人) 給排水設備課 15人 (5人) 下水道課 13人 (13人)	

()内は、うち下水道事業会計職員 合計22名

宝塚市上下水道事業審議会 資料

令和6年(2024年)10月28日開催

本日の議題

	タイトル	ページ
1	令和5年度水道事業会計決算について(報告)	1
2	令和5年度下水道事業会計決算について(報告)	15
3	上下水道ビジョンの改定に向けて	28
4	その他	-

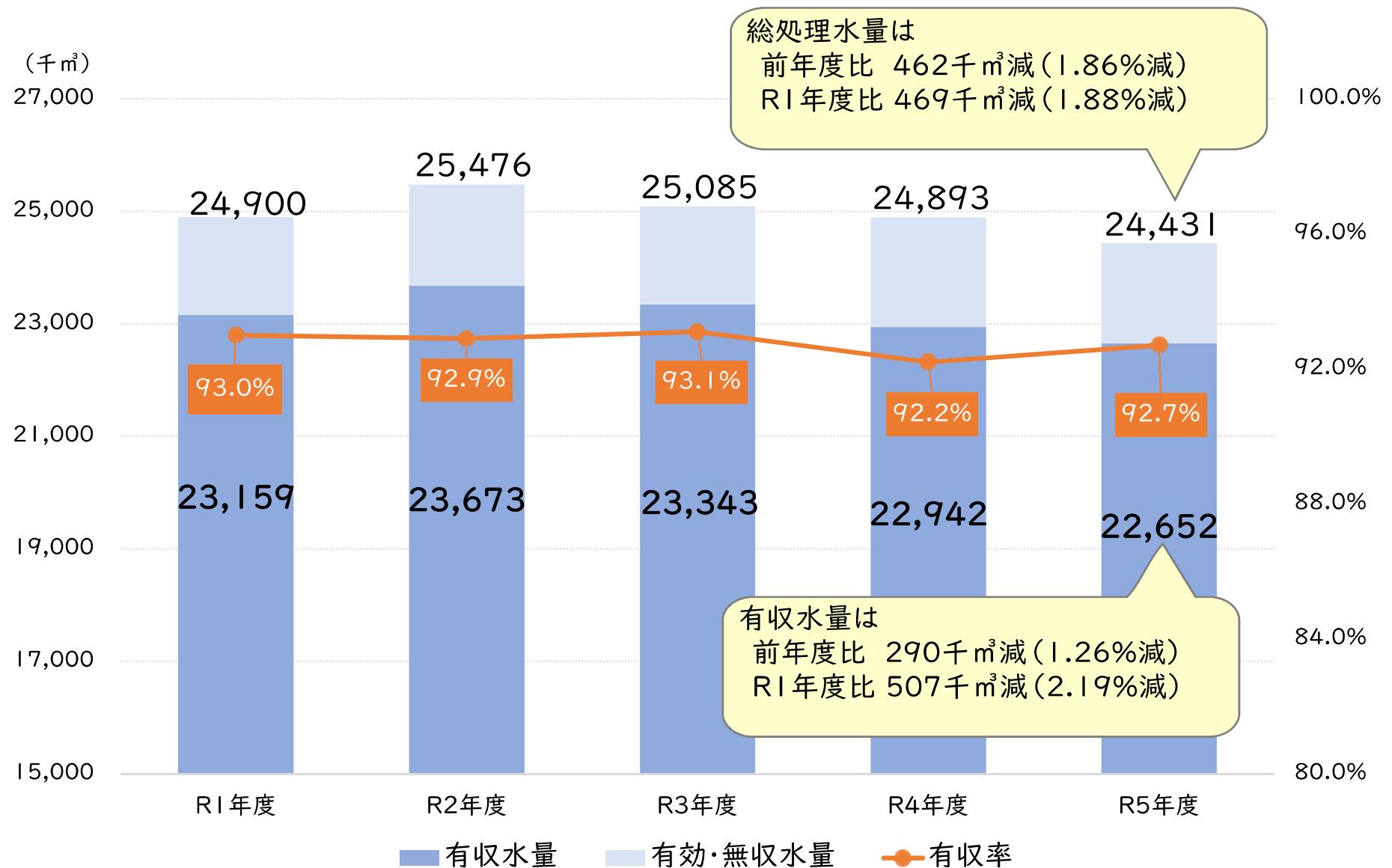
I. 決算の概要

令和5年度は、令和元年度から5年連続の赤字となりましたが、令和4年度と比較すると、純損失額は293,331千円減少しました。純損失額減少の主な原因是、令和4年度に行った水道基本料金減免の影響を除くと、収益としては分担金の会計処理方法を変更したことによる一時的な特別利益の増加、費用としては、庁舎移転完了に伴う仮設庁舎賃借料や備消耗品費の減少、受水費や動力費の減少です。

(1) 給水人口と給水戸数の推移



(2) 総配水量と有収水量の推移



(3) 収支の状況

①収益的収支(税抜)

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
水道事業収益	4,533,708	4,374,239	159,469	103.6
水道事業費用	4,707,238	4,841,100	△133,862	97.2
当年度純利益	△173,530	△466,861	293,331	-

②資本的収支(税込)

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
資本的収入 前年度同意債で今年度借入分	1,055,206 △274,500	1,488,699 △16,000	△433,493 △258,500	70.9 -
資本的支出	2,527,020	3,006,558	△479,538	84.1
収支不足額※	1,746,314	1,533,859	212,455	113.9

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんしました。

③内部留保資金残高

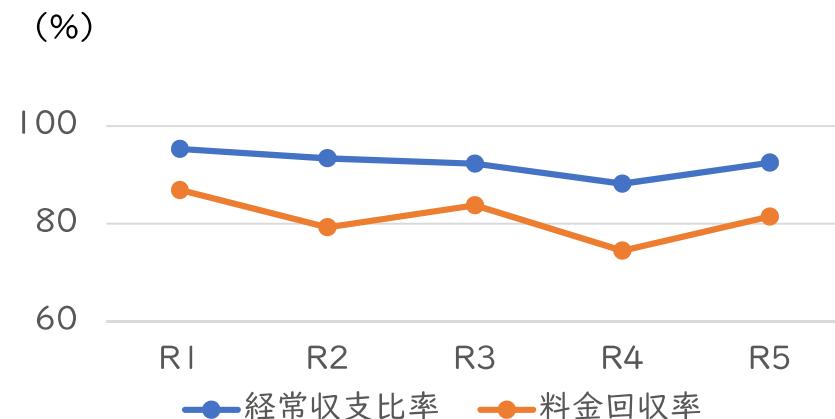
(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
内部留保資金残高※	2,293,315	3,105,026	△811,711	73.9

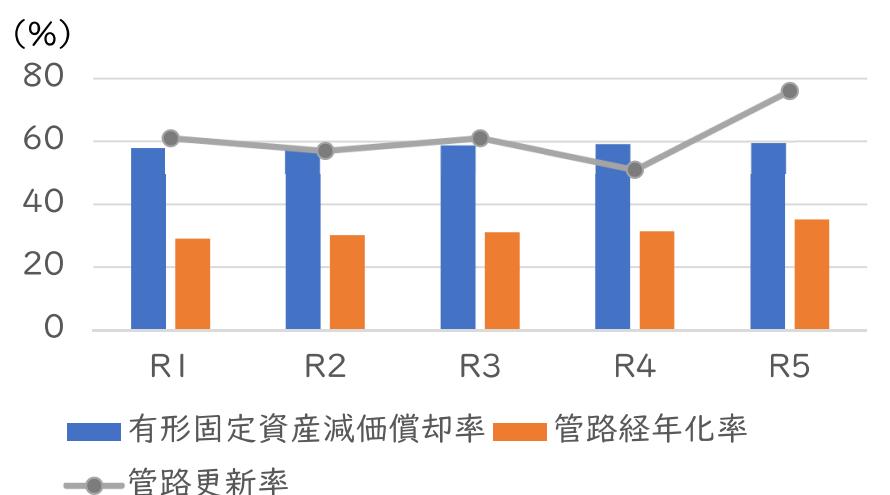
※内部留保資金残高は、3月末時点の現預金残高ではなく、年度末の未収金や未払金などを考慮した資金残高です。

(4) 経営指標に関する事項

① 経常収支比率及び料金回収率



② 有形固定資産減価償却率、管路経年化率及び管路更新率



指標	意味	状況	目指すべき方向
経常収支比率	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す。	受水費、動力費等の減少により、前年度比で4.2ポイント改善しましたが、100%を下回っています。	100%以上
料金回収率	給水にかかる費用が給水収益によって、どの程度賄われているかを示す。	前年度比で7.0ポイント改善しましたが、100%を下回っています。	100%以上
有形固定資産減価償却率	有形固定資産の取得原価に占める減価償却累計額の比率を示す。	資産の老朽化が進み、0.3ポイント増の59.5%となりました。	減少
管路経年化率	法定耐用年数(40年)を超えている水道管の割合を示す。	前年度比3.8ポイント増の35.2%となっています。	減少
管路更新率	当該年度に更新した水道管の割合を示す。	前年度以前からの繰越工事が完成したことから、前年度比0.25ポイント増の0.76%となりました。	増加

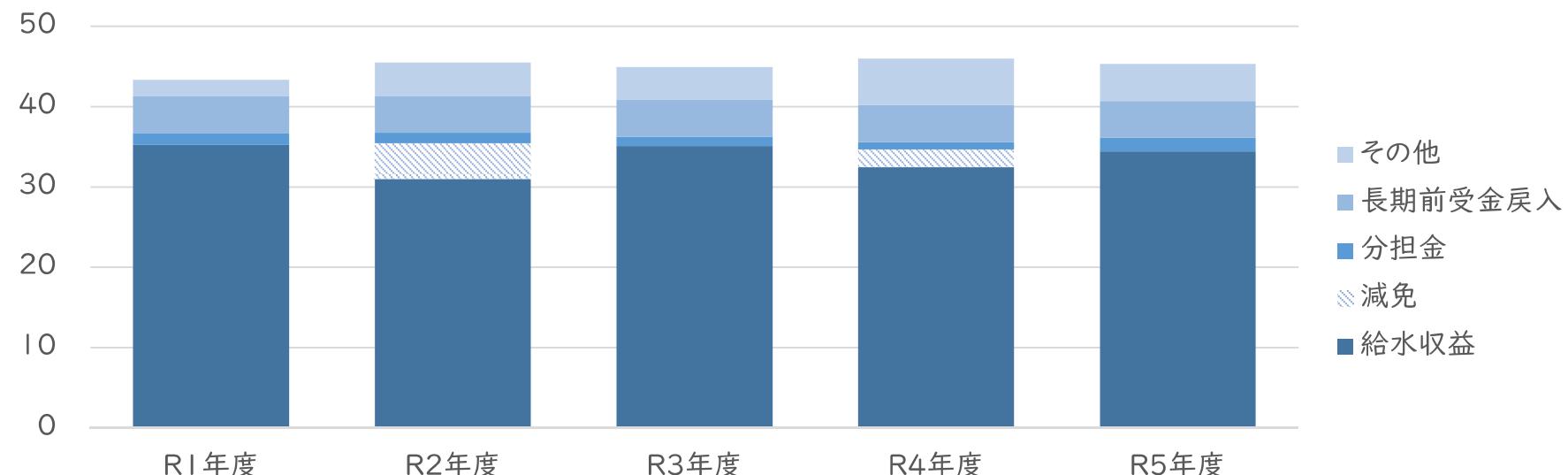
2. 収支の状況

(1) 収益的収入

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
給水収益	3,443,567	3,245,943	197,624	106.1
分担金	172,180	90,485	81,695	190.3
長期前受金戻入	456,300	460,705	△4,405	99.0
その他	461,661	577,106	△115,445	80.0
合計	4,533,708	4,374,239	159,469	103.6

(億円)

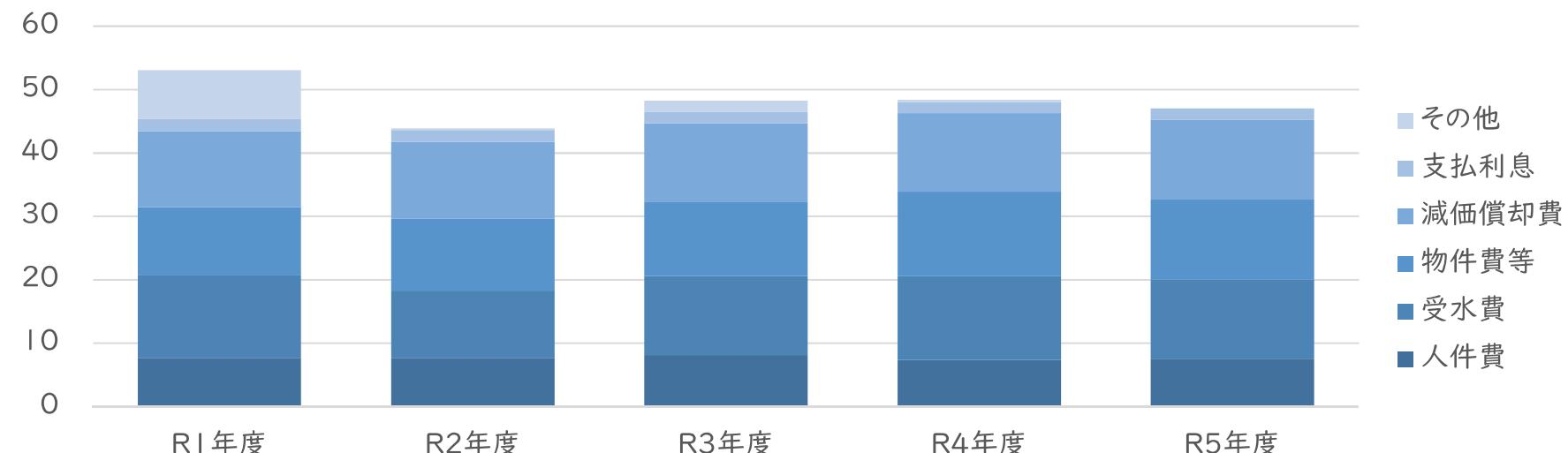


(2) 収益的支出

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
人件費	757,807	741,354	16,453	102.2
受水費	1,252,940	1,316,789	△63,849	95.2
物件費等	1,256,374	1,336,117	△79,743	94.0
減価償却費	1,257,583	1,235,742	21,841	101.8
支払利息	179,316	174,252	5,064	102.9
その他	3,218	36,846	△33,628	8.7
合計	4,707,238	4,841,100	△133,862	97.2

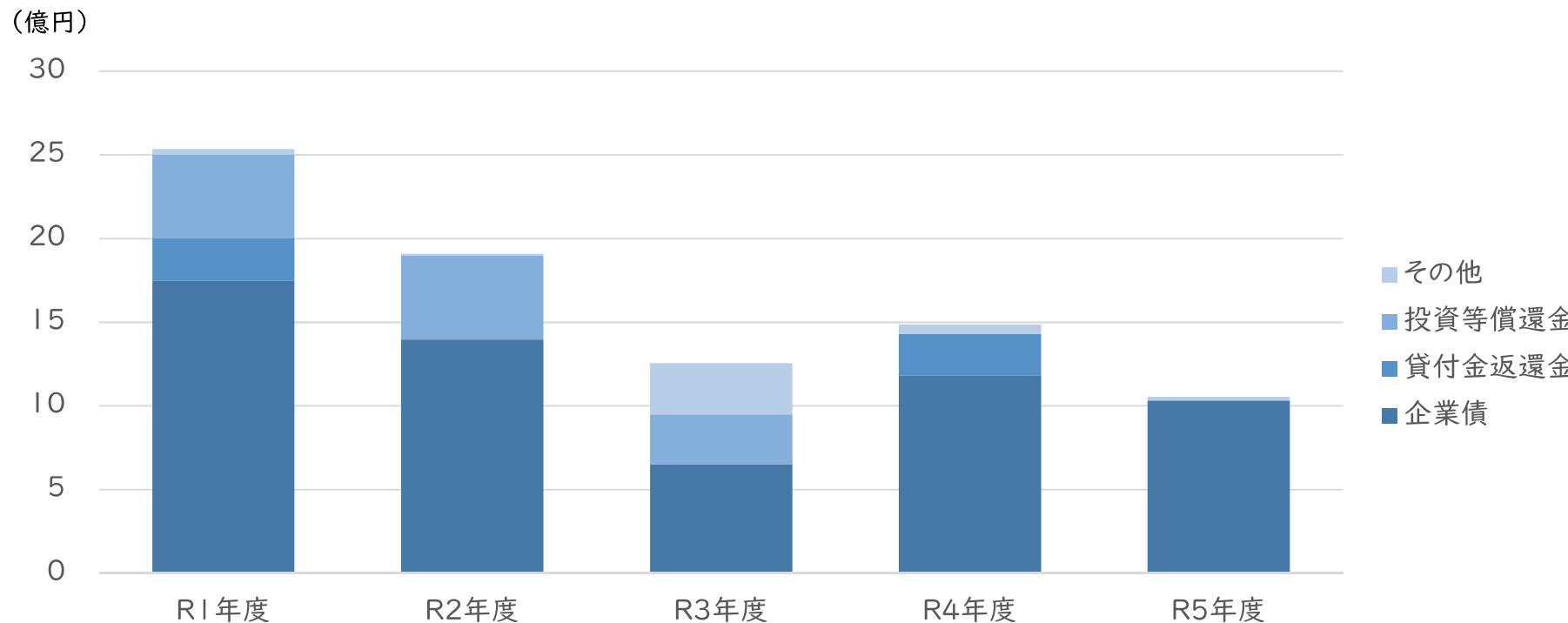
(億円)



(3) 資本的収入

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
企業債	1,033,000	1,181,100	△148,100	87.5
貸付金返還金	0	250,000	△250,000	皆減
その他	22,206	57,599	△35,393	38.6
合計	1,055,206	1,488,699	△433,493	70.9

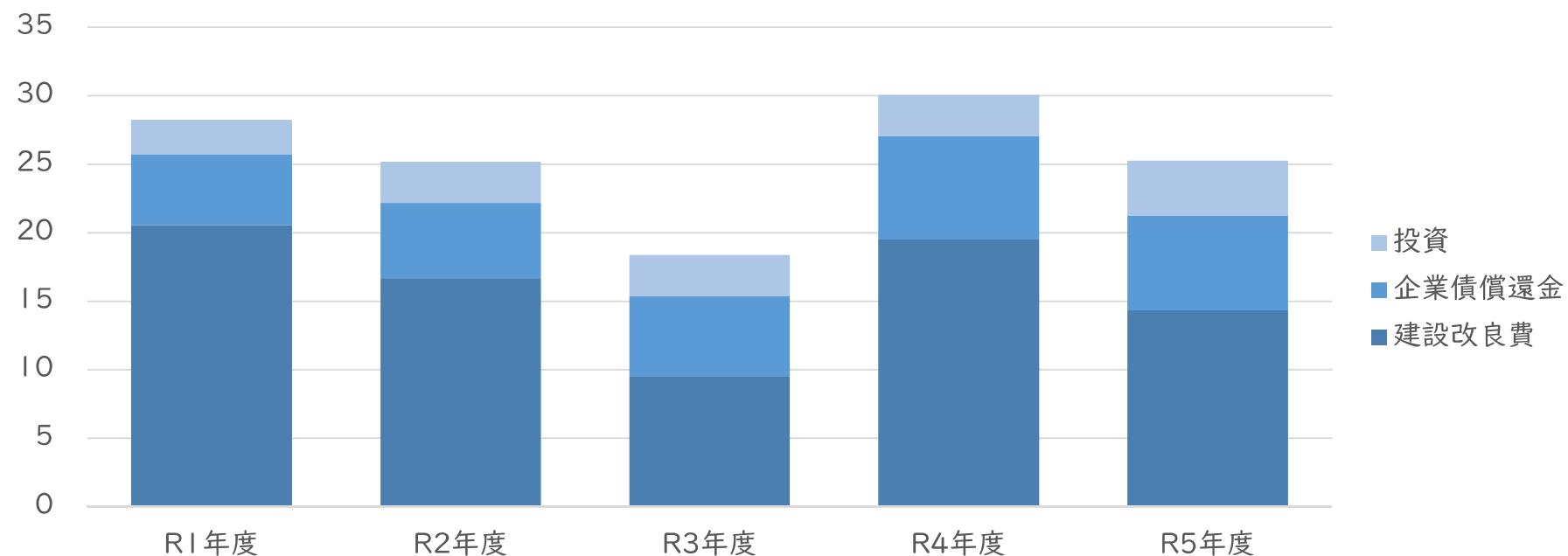


(4) 資本的支出

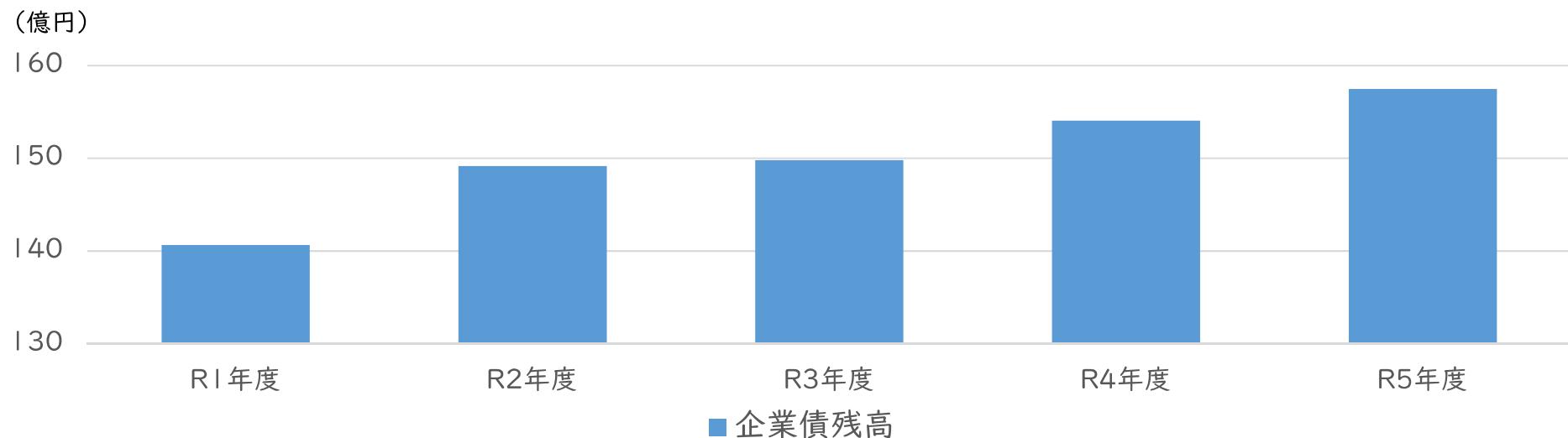
(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
建設改良費	1,435,253	1,950,613	△515,360	73.6
企業債償還金	691,767	755,945	△64,178	91.5
投資	400,000	300,000	100,000	133.3
合計	2,527,020	3,006,558	△479,538	84.1

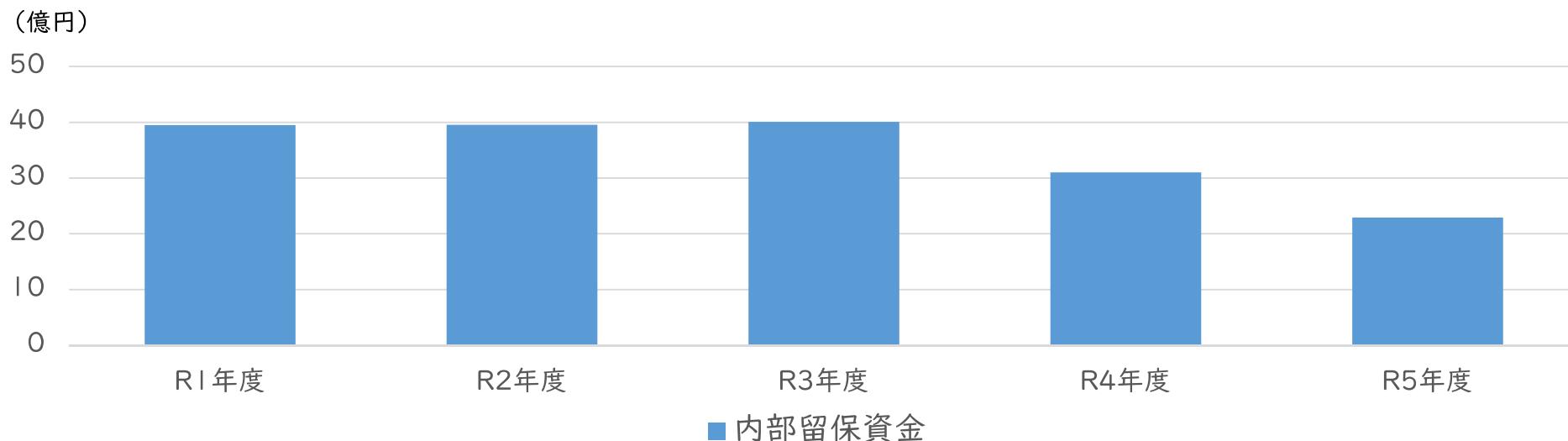
(億円)



(5) 企業債残高の推移

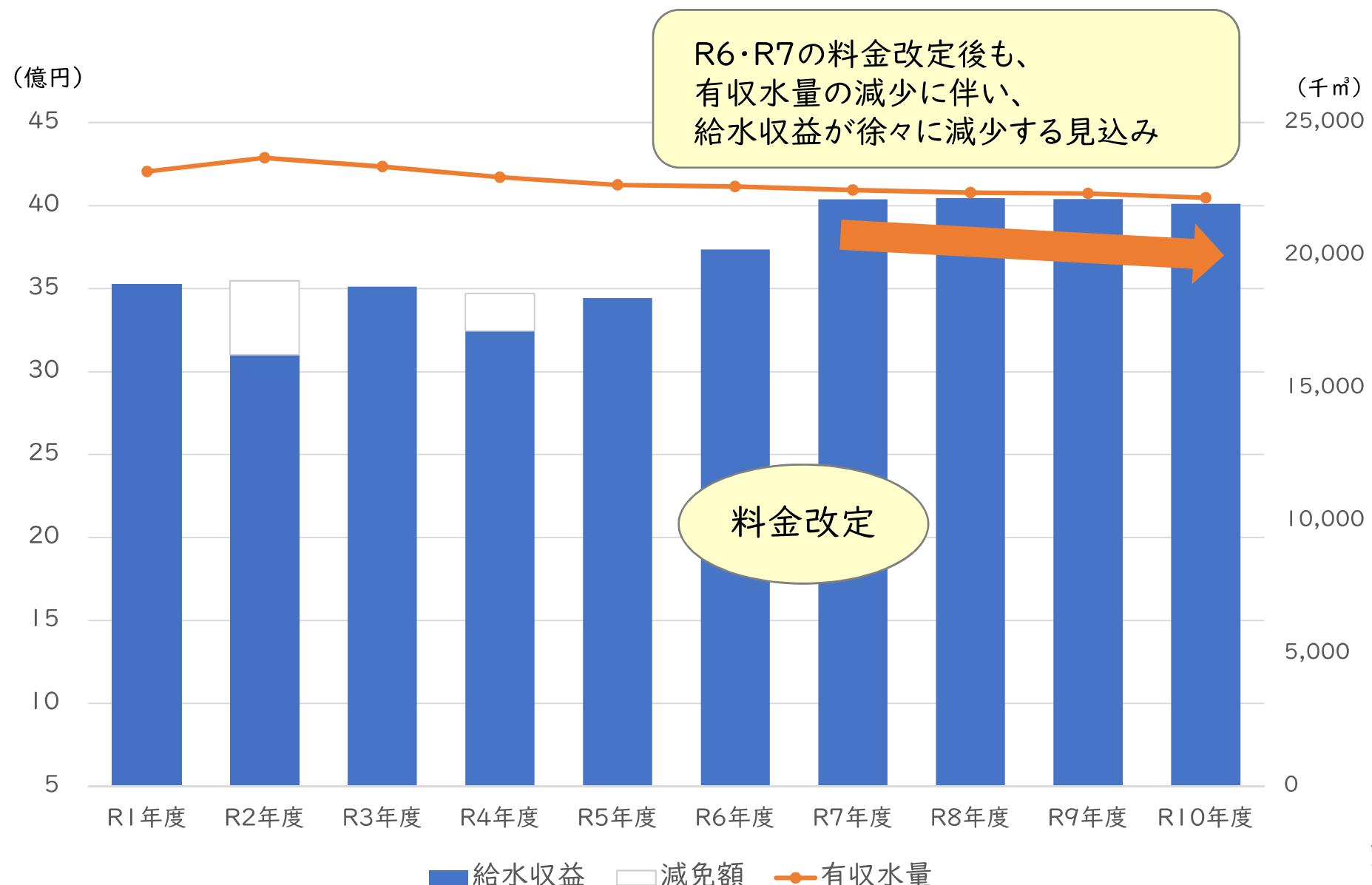


(6) 内部留保資金の推移

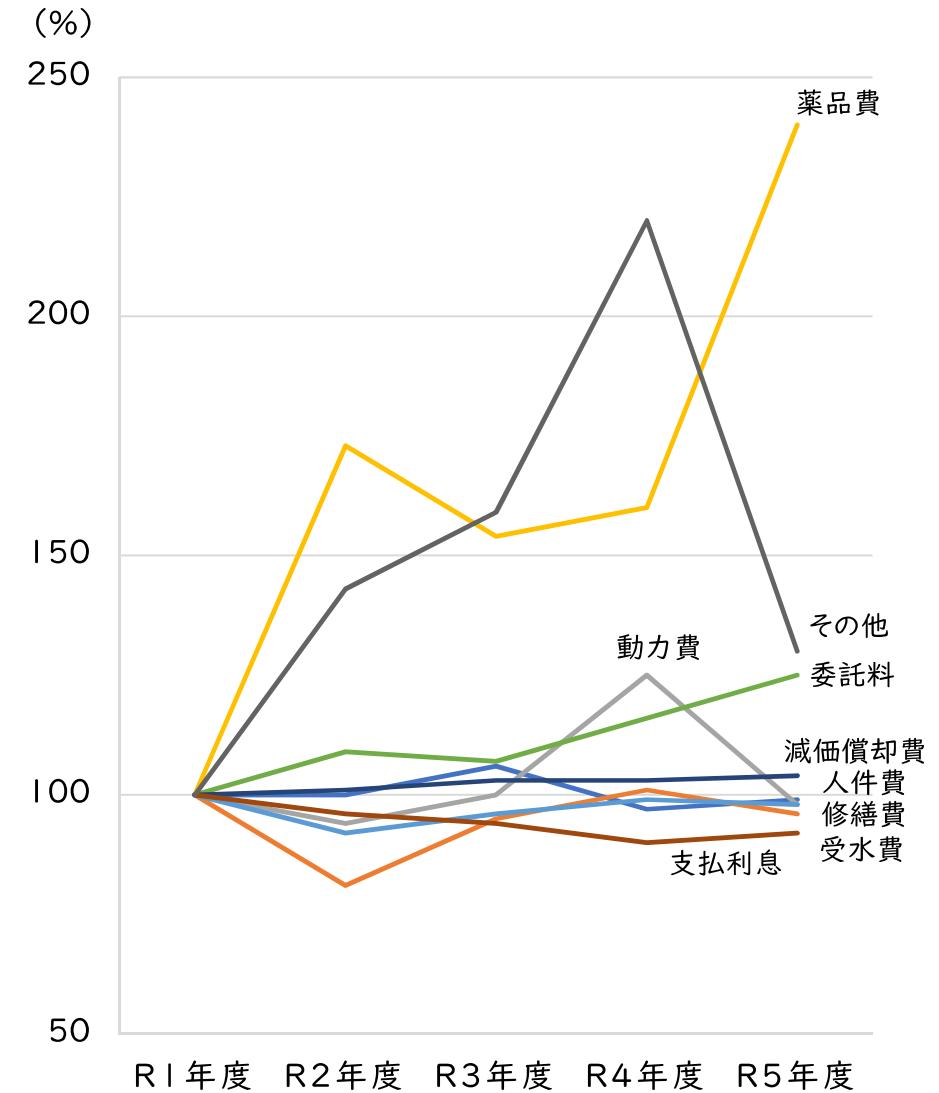
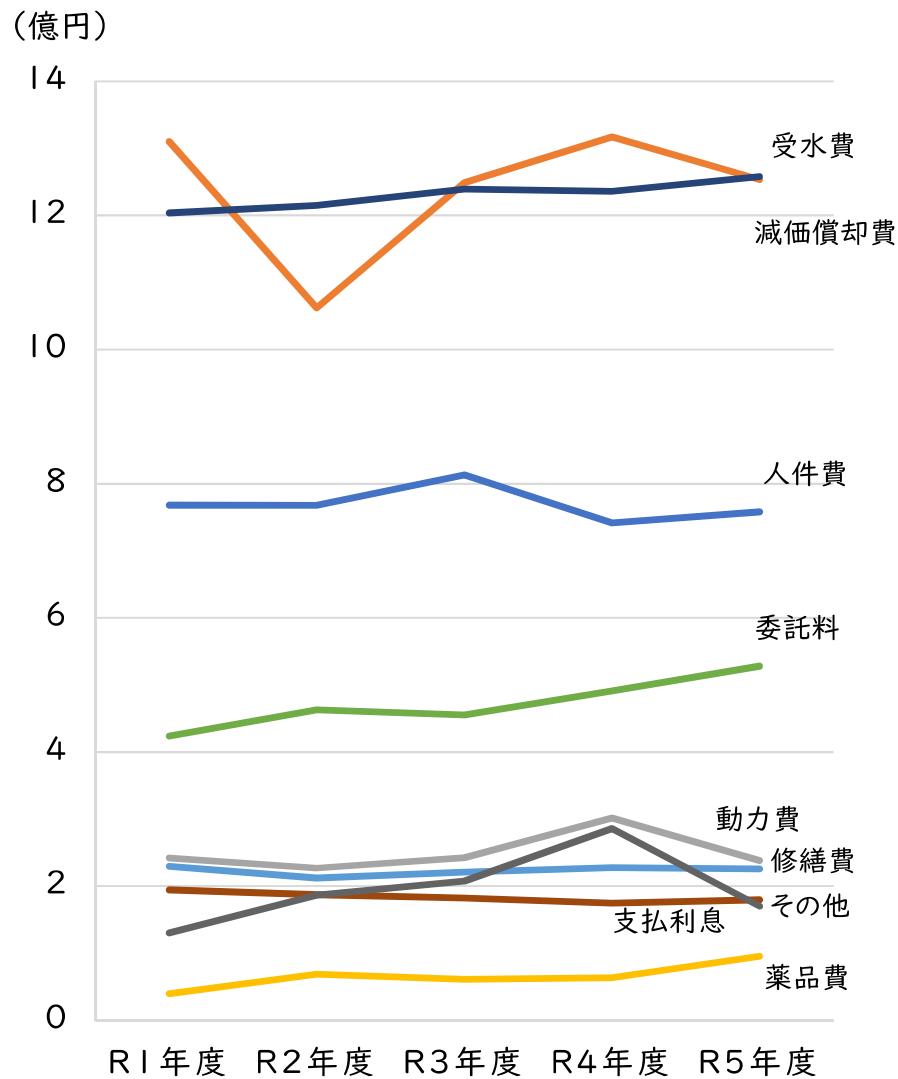


決算から見える水道事業の主な課題

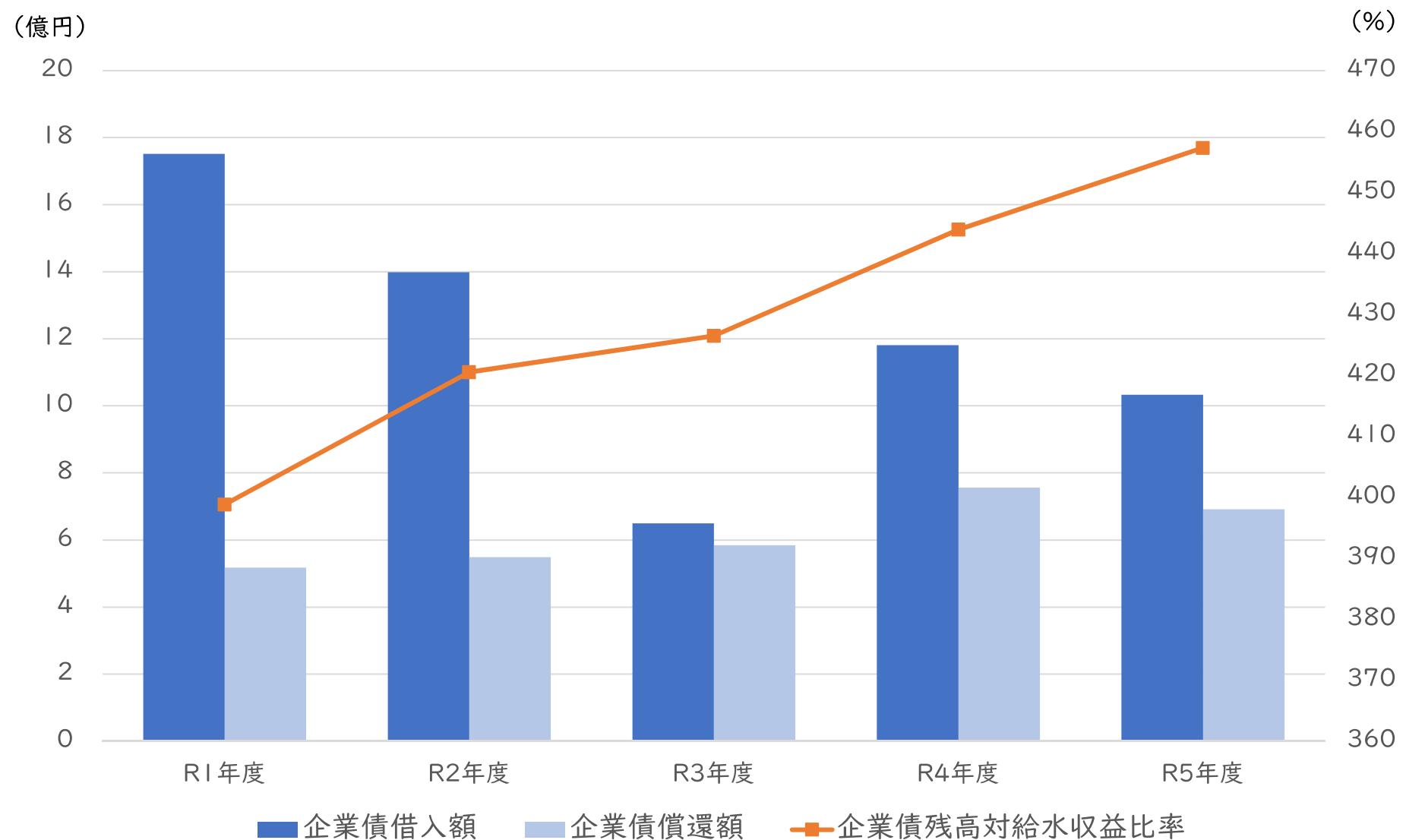
課題① 有収水量の減少による給水収益の減少



課題② 経常費用の増加(物価の高騰など)



課題③ 企業債残高対給水収益比率の増加（グラフは減免額補正後）



本日の議題

	タイトル	ページ
1	令和5年度水道事業会計決算について(報告)	1
2	令和5年度下水道事業会計決算について(報告)	15
3	上下水道ビジョンの改定に向けて	28
4	その他	-

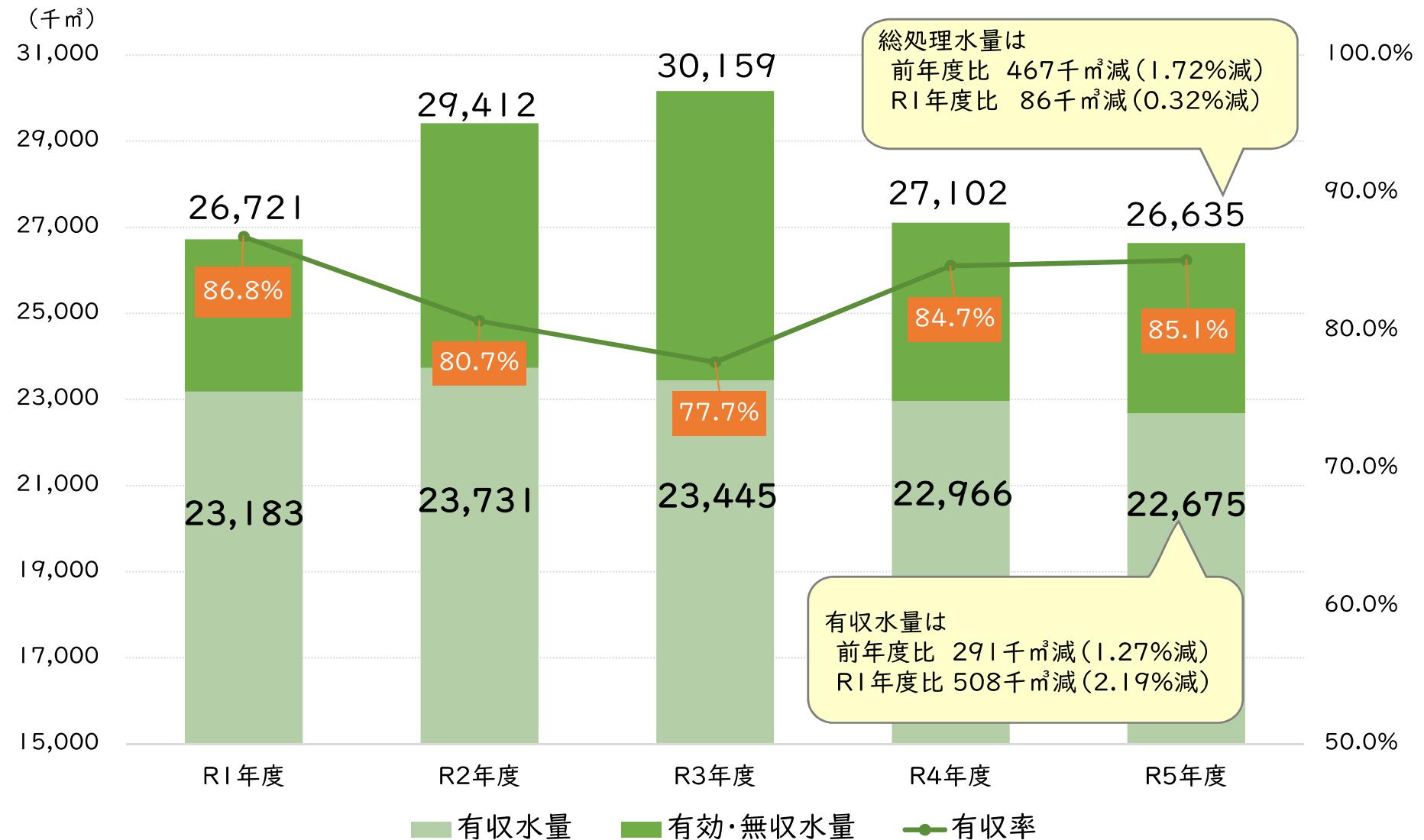
I. 決算の概要

令和5年度は、令和4年度と比較すると、純利益額が80,597千円減少しました。純利益額減少の主な原因是、令和4年度に行った下水道使用料の基本使用料減免の影響を除くと、有収水量の減少による下水道使用料の減少や退職給付引当金戻入益の減少です。

(1) 水洗化人口と水洗化世帯数の推移



(2) 総処理水量と有収水量の推移



(3) 収支の状況

① 収益的収支(税抜)

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
下水道事業収益	4,018,764	4,129,211	△110,447	97.3
下水道事業費用	3,979,532	4,009,382	△29,850	99.3
当年度純利益	39,232	119,829	△80,597	-

② 資本的収支(税込)

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
資本的収入	781,475	1,264,254	△482,779	61.8
資本的支出	2,644,294	3,031,438	△387,144	87.2
収支不足額※	1,862,819	1,767,184	95,635	105.4

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんしました。

③ 内部留保資金残高

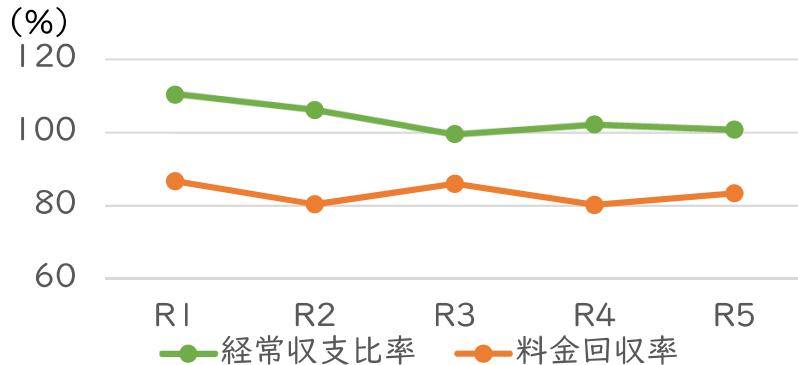
(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
内部留保資金残高※	509,085	530,588	△21,503	95.9

※内部留保資金残高は、3月末時点の現預金残高ではなく、年度末の未収金や未払金などを考慮した資金残高です。

(4) 経営指標に関する事項

① 経常収支比率及び経費回収率



② 有形固定資産減価償却率及び管渠老朽化率



指標	意味	状況	目指すべき方向
経常収支比率	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示す。	有収水量の減少による下水道使用料の減少により、前年度比で1.4ポイント減となりましたが、100%は上回りました。	100%以上
経費回収率	汚水処理にかかる費用が下水道使用料によって、どの程度賄われているかを示す。	前年度比で3.2ポイント改善しましたが、100%を下回っています。	100%以上
有形固定資産減価償却率	有形固定資産の取得原価に占める減価償却累計額の比率を示す。	資産の老朽化が進み、2.0ポイント増の47.7%となりました。	減少
管渠老朽化率	法定耐用年数(50年)を超えた管渠延長の割合を示す。	前年度比2.3ポイント増の3.0%となっています。	減少

2. 収支の状況

(1) 収益的収入

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
下水道使用料	2,195,892	2,107,207	88,685	104.2
雨水処理負担金	636,478	687,737	△51,259	92.5
他会計負担金	61,734	57,629	4,105	107.1
他会計補助金	399,593	527,967	△128,374	75.7
長期前受金戻入	705,336	702,315	3,021	100.4
その他	19,731	46,356	△26,625	42.6
合計	4,018,764	4,129,211	△110,447	97.3

(億円)

50

40

30

20

10

0

R1年度

R2年度

R3年度

R4年度

R5年度

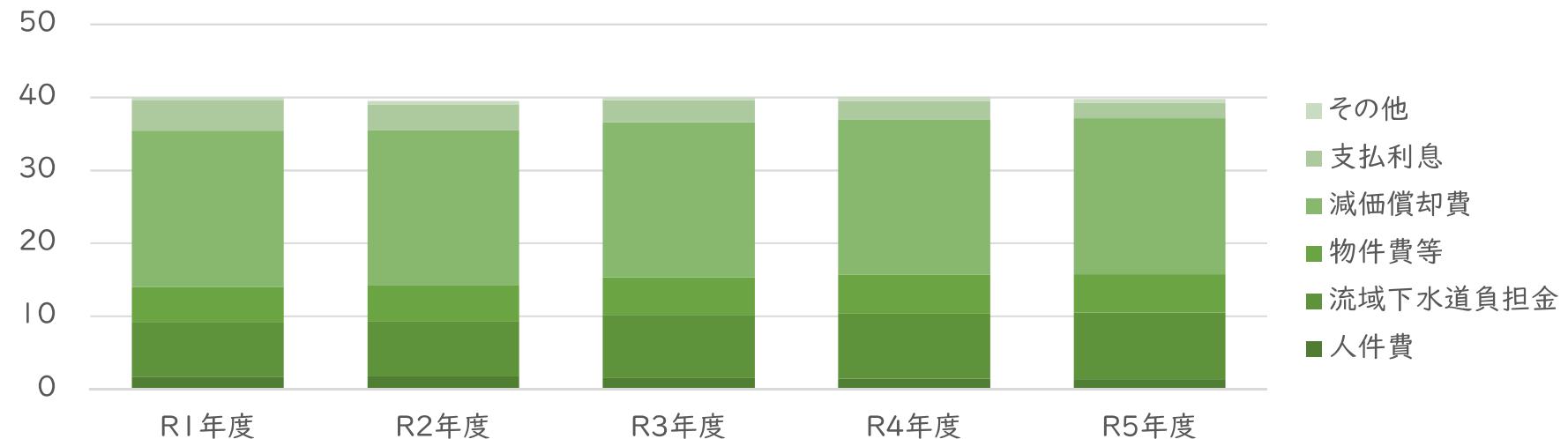
- その他
- 長期前受金戻入
- 他会計補助金
- 他会計負担金
- 雨水処理負担金
- 減免
- 下水道使用料

(2) 収益的支出

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
人件費	139,776	148,988	△9,212	93.8
物件費等	525,678	525,291	387	100.1
流域下水道負担金	911,707	896,036	15,671	101.7
減価償却費	2,139,071	2,128,508	10,563	100.5
支払利息	212,158	250,996	△38,838	84.5
その他	51,142	59,563	△8,421	85.9
合計	3,979,532	4,009,382	△29,850	99.3

(億円)

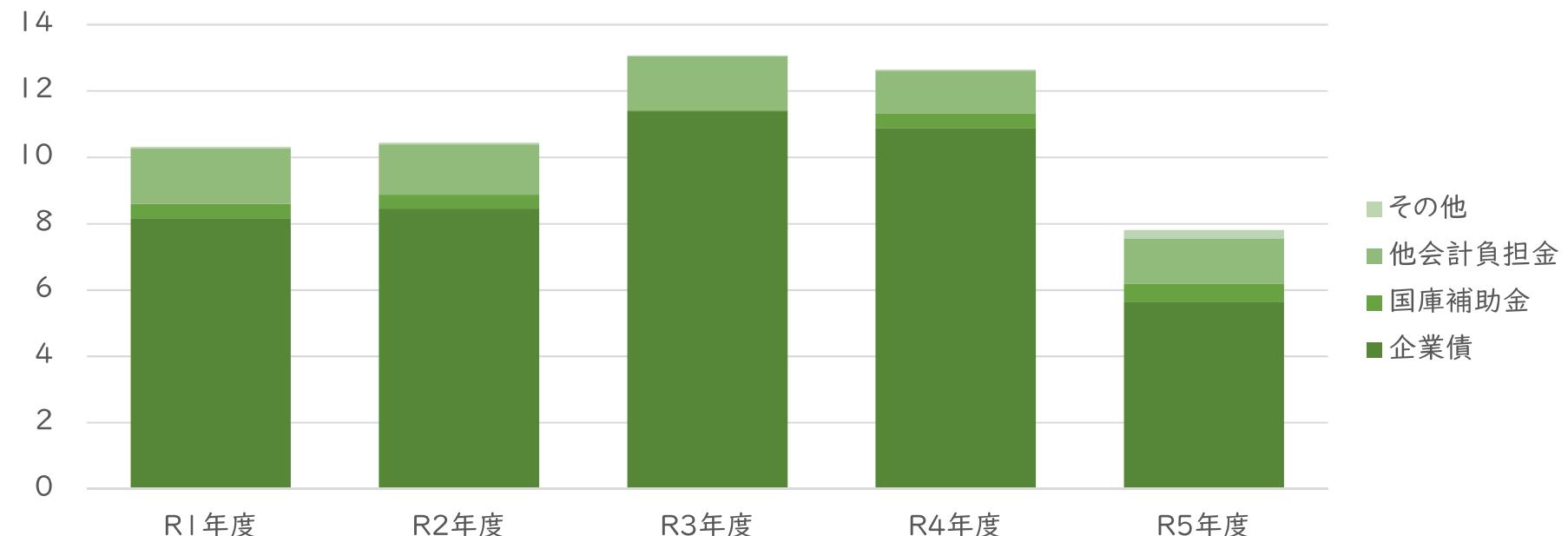


(3) 資本的収入

(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
企業債	563,800	1,088,750	△524,950	51.8
国庫補助金	54,669	44,849	9,820	121.9
他会計負担金	138,048	127,996	10,052	107.9
その他	24,958	2,659	22,299	938.6
合計	781,475	1,264,254	△482,779	61.8

(億円)

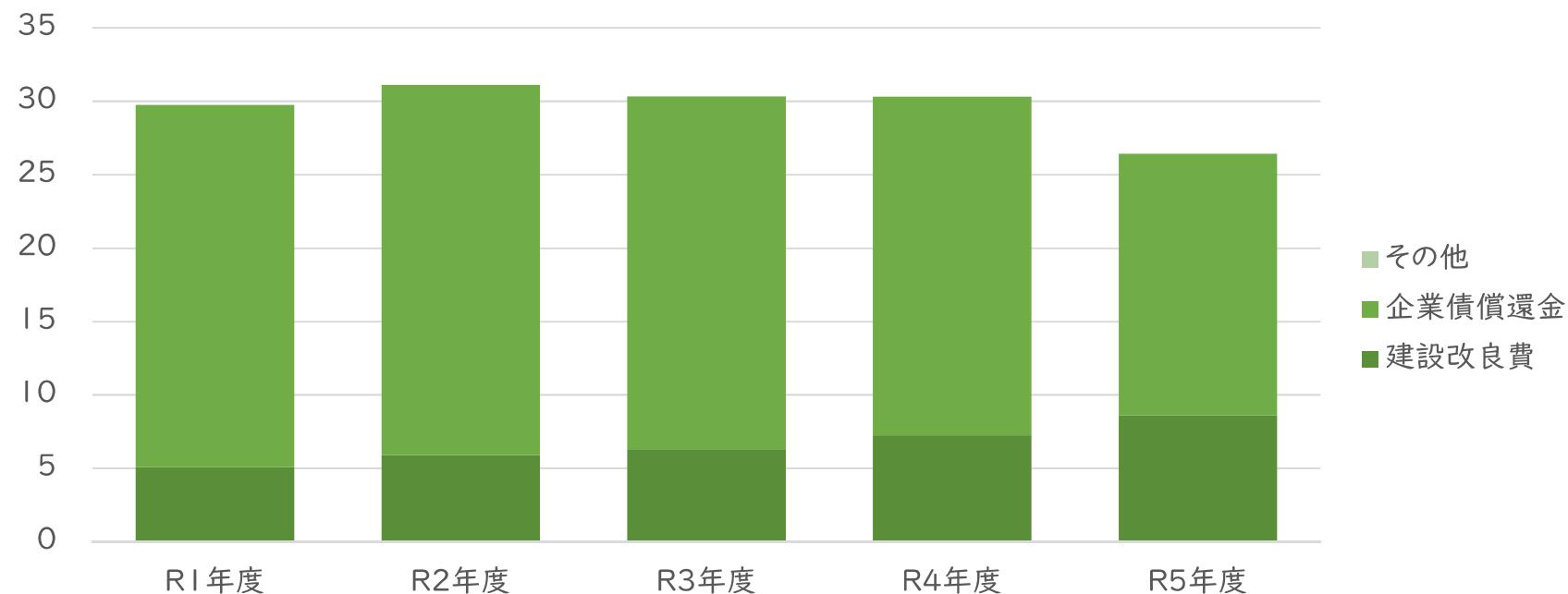


(4) 資本的支出

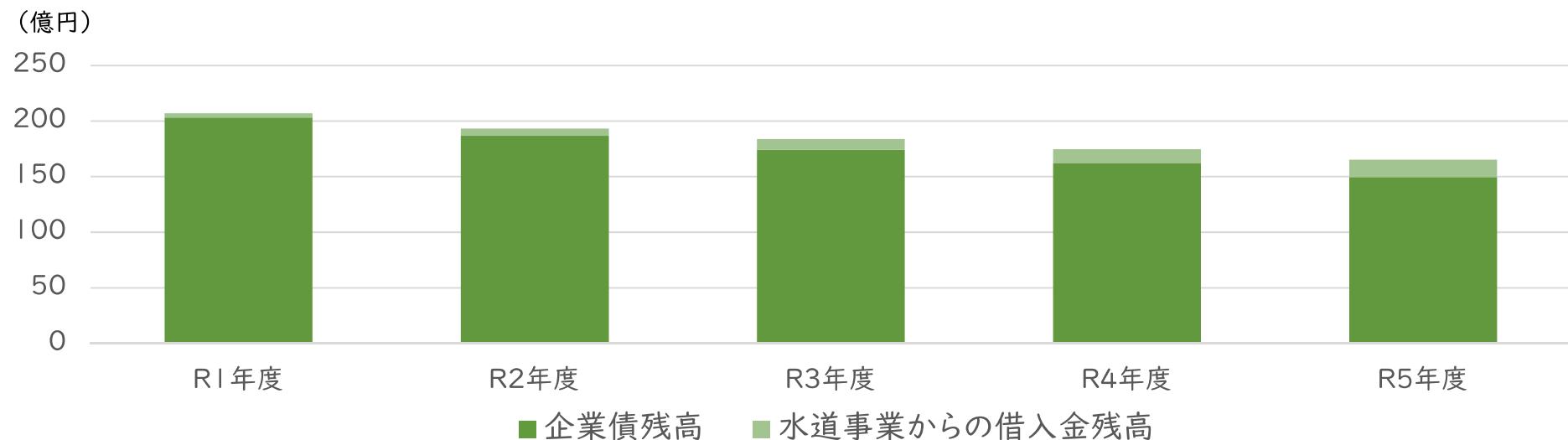
(金額:千円)

	令和5年度	令和4年度	増減	前年度比(%)
建設改良費	861,221	726,038	135,183	118.6
企業債償還金	1,783,073	2,305,400	△522,327	77.3
合計	2,644,294	3,031,438	△387,144	87.2

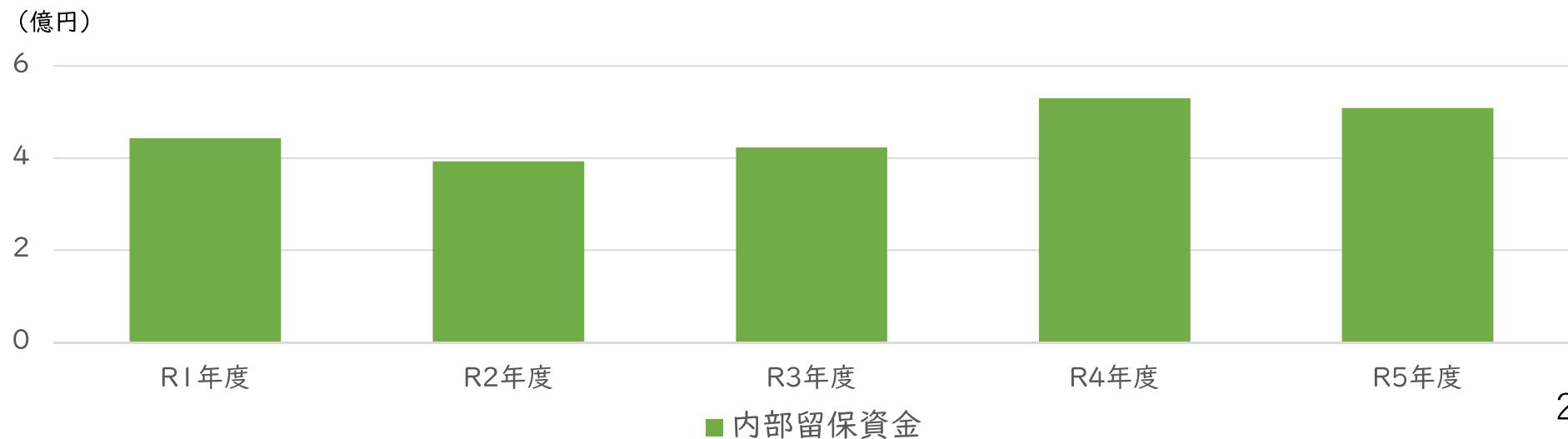
(億円)



(5) 企業債残高及び水道事業からの借入金残高の推移

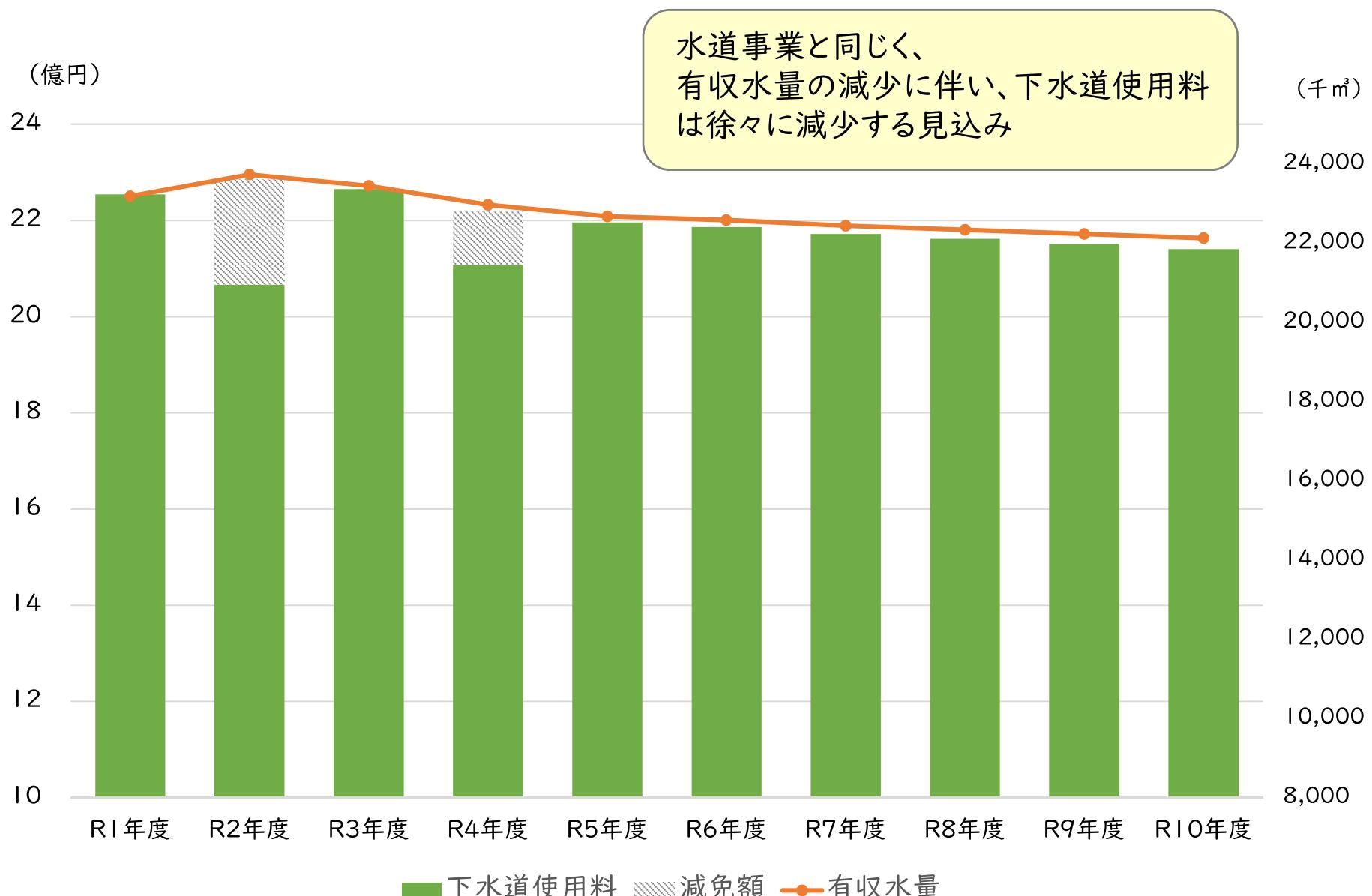


(6) 内部留保資金の推移

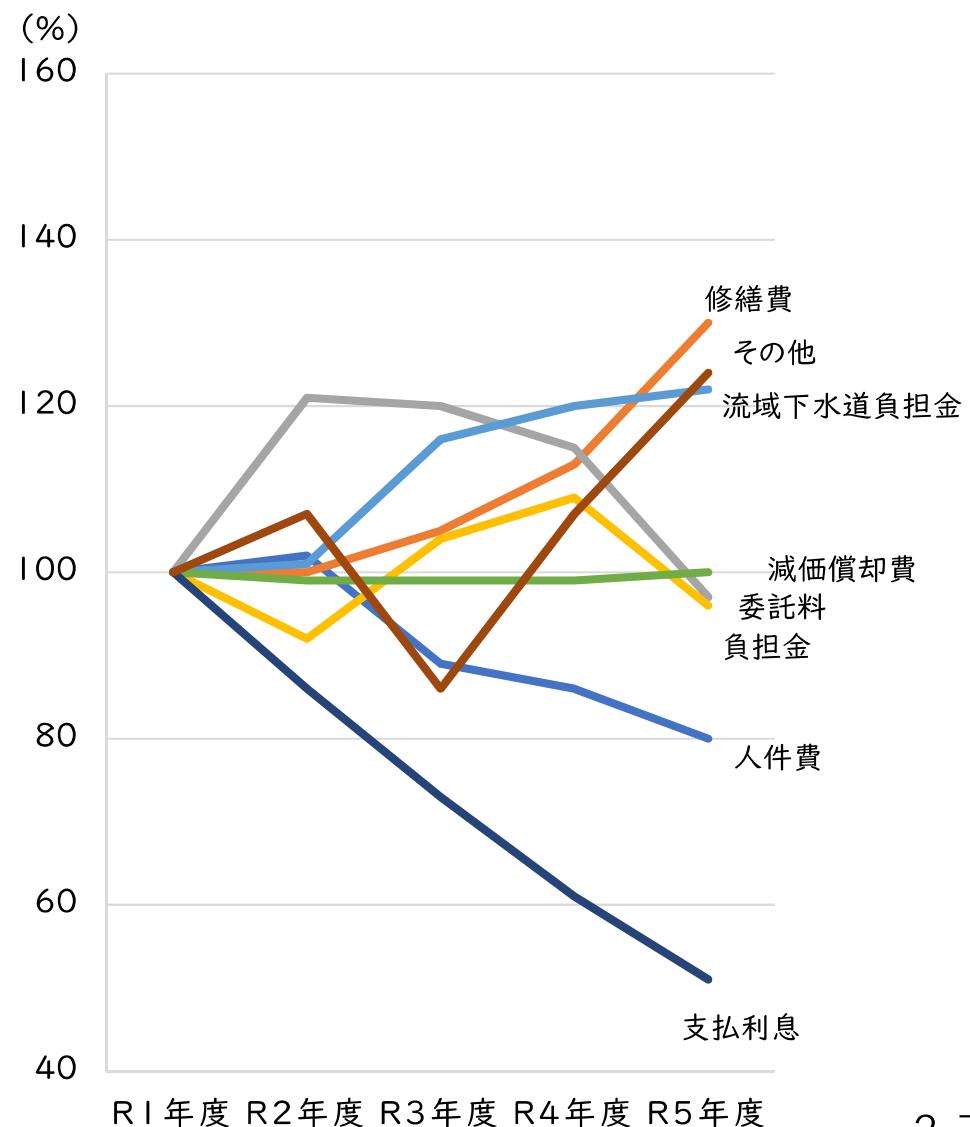
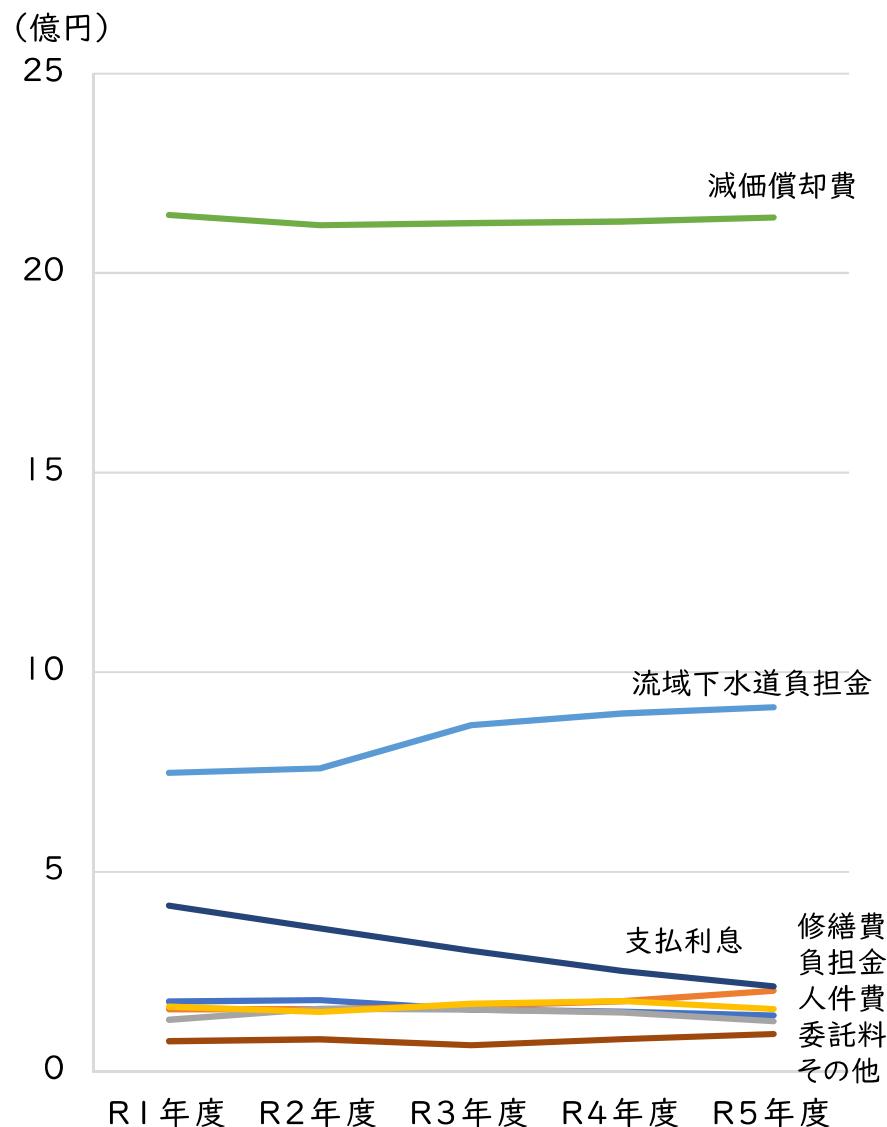


決算から見える下水道事業の主な課題

課題① 有収水量の減少による下水道使用料の減少



課題② 経常費用の増加(物価の高騰など)



本日の議題

	タイトル	ページ
1	令和5年度水道事業会計決算について(報告)	1
2	令和5年度下水道事業会計決算について(報告)	15
3	上下水道ビジョンの改定に向けて	28
4	その他	-

次期上下水道ビジョン・経営戦略改定のスケジュール



上下水道事業の決算から見える主な課題

- ① 有収水量の減少による給水収益及び下水道使用料の減少
- ② 経常費用の増加(物価の高騰など)
- ③ 企業債残高の増加(特に水道事業)



今後、有収水量の大幅な増加は見込めないと考えると、老朽化が進み、費用負担が増していく上下水道事業を安全に持続させるためには、これまでの10年とは異なる新たな「連携」や「挑戦」の姿勢が必要不可欠です。

経常収支比率と回収率が右肩下がりであることから、3~5年ごとの料金水準の検証も持続可能な事業運営には欠かせないため、次期のビジョン・経営戦略では、これらの内容を反映させた計画を策定します。

次期上下水道ビジョンにおける方向性(イメージ)

宝塚市水道ビジョン2035
宝塚市下水道ビジョン2035
(令和8年度～令和17年度版)

最重要キーワード

持続可能

ハード面の安全・持続可能性 事業体としての持続可能性

行動規範

連携

挑戦

広域連携

官民連携の
推進

ダウンサイジング

ICT・AIなど
新技術の活用